

SHARP

AQUOS sense10

取扱説明書 詳細版

はじめに

お買い上げいただき、誠にありがとうございました。
本書をよくお読みの上、正しくお使いください。

取扱説明書について

■ クイックスタート(本体付属品)

各部の名称と機能やご利用にあたっての注意事項、保証などについて説明しています。

■ 取扱説明書 詳細版(本書)

機能の詳しい案内や操作について説明しています。

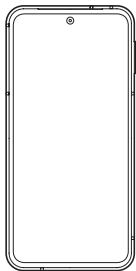
下記URLからアクセスすることができます。

<https://k-tai.sharp.co.jp/support/>

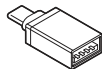
※最新情報がダウンロードできます。なお、URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

- 本書においては、「AQUOS sense10」を「本製品」と表記しています。
- 本書は、お買い上げ時の内容を記載しています。
- 本書はホームアプリが「AQUOS Home」の場合で説明しています。
- 本書ではmicroSDメモリーカード、microSDHCメモリーカード、microSDXCメモリーカードを、「microSDメモリーカード」または「microSD」と記載しています。
- 本書の内容やホームページのURLに関して、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書に記載している画面およびイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
- OSの仕様変更やサービスの変更・終了等により一部機能がご利用いただけなくなる場合があります。
- ご利用の通信事業者によって表示が異なる場合があります。

本体付属品



本体



クイックスイッチ
アダプター(試供品)

■ クイックスタート

目次

取扱説明書について	H2
本体付属品	1

注意事項

取り扱い上のご注意	4
内蔵電池の交換について	7
リサイクルについて	7
防水／防塵／耐衝撃性能	7

ご使用前の準備

SIMについて	15
microSDメモリカード	17
充電	20
電源を入れる／切る	21
初期設定	22
本製品で利用する暗証番号について	23

基本操作

基本操作	25
画面表示／アイコン	26

ホーム画面

ホーム切替	29
-------------	----

AQUOS Home	30
------------------	----

電話／連絡先

電話について	34
電話をかける	34
電話を受ける	37
通話中の操作	38
通話履歴	39
電話アシスタント	41
通話設定	42
連絡先	44

カメラ／フォト

カメラについて	47
フォト	57

本体設定

設定メニュー	58
音とバイブレーション	59
AQUOSトリック	60
デバイス情報	63
お困りのときは	64

データ通信

Bluetooth®機能	65
NFC通信	66

付録

トラブルシューティング (FAQ)	67
システム アップデート	74
アフターサービス／保証について	76
主な仕様	77
携帯電話機の電波防護への適合性について	78
CAUTION	80
輸出管理規制	81
知的財産権について	81

注意事項

取り扱い上のご注意

Bluetooth機能を利用する場合のお願い

- 本製品は、Bluetooth機能を利用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を利用した通信を行う際にはご注意ください。
- Bluetooth機能を利用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品で以下の操作を行うことで、周波数帯に関する情報や注意事項をご確認いただくことができます。
ホーム画面▶「アプリー覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]▶[規制ラベル]
- 周波数帯について
本製品のBluetooth機能が利用する周波数帯は次のとおりです。



- ① 2.4:2400MHz帯を利用する無線設備を表します。
- ② FH:変調方式がFH-SS方式であることを示します。
- ③ 4:想定される干渉距離が40m以下であることを示します。
- ④ XX:変調方式がその他の方式であることを示します。
- ⑤ 8:想定される干渉距離が80m以下であることを示します。
- ⑥ : :2400MHz~2483.5MHzの全帯域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

● Bluetooth機器使用上の注意事項

- 本製品の利用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで利用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略します)が運用されています。
1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
 2. 万が一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに利用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
 3. その他、ご不明な点につきましては、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。

無線LAN(WLAN)についてのお願い

- 無線LAN(WLAN)は、電波を利用して情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者に通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されたりする可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、利用することを推奨します。

- 無線LAN機能を利用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 本製品で以下の操作を行うことで、周波数帯に関する情報や注意事項をご確認いただくことができます。

ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]▶[規制ラベル]

● 無線LANについて

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで利用しないでください。

- ・ 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなったりすることがあります(特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります)。
- ・ テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れたりすることがあります。
- ・ 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャネルを利用していると、正しく検索できない場合があります。

● 周波数帯について

本製品の無線LAN機能が利用する周波数帯は次のとおりです。



- ① 2.4:2400MHz帯を利用する無線設備を示します。
- ② DS:変調方式がDS-SSであることを示します。
- ③ OF:変調方式がOFDMであることを示します。
- ④ 4:想定される干渉距離が40m以下であることを示します。
- ⑤ ■■■ ■■■ ■■■ :2400MHz～2483.5MHzの全帯域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

本製品の無線LANで設定できるチャネルは1～13です。これ以外のチャネルのアクセスポイントには接続できませんので、ご注意ください。

利用可能なチャネルは国により異なります。

航空機内での利用は、事前に各航空会社へご確認ください。

● 2.4GHz機器使用上の注意事項

WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいた上で、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせいただき、混信回避のための処置など(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。

● 5GHz機器使用上の注意事項

5GHzの周波数帯においては、5.2GHz/5.3GHz/5.6GHz帯(W52/W53/W56)の3種類の帯域を利用することができます。

- ・ W52(5.2GHz帯/36、40、44、48ch)
- ・ W53(5.3GHz帯/52、56、60、64ch)
- ・ W56(5.6GHz帯/100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140、144ch)

5.2GHz/5.3GHz帯無線LAN(W52/W53)の屋外利用は法律で禁止されています(5.2GHz帯高出力データ通信システムのアクセスポイント/中継局と通信する場合を除く)。

● 6GHz機器使用上の注意事項

6GHzの周波数帯においては、6L; 5925-6425MHzを使用することができま

- 6L (1, 5, 9, 13, 17, 21, 25, 29, 33, 37, 41, 45, 49, 53, 57, 61, 65, 69, 73, 77, 81, 85, 89, 93 ch)

本製品が対応する無線LAN規格のIEEE802.11axは、2.4GHz/5GHz/6GHzの周波数帯を使用します。6GHzの送信電力クラスはLPI(Low Power Indoor)とVLP(Very Low Power)に対応しています。LPIモードで動作する6GHz帯無線LANの屋外利用は法律で禁止されています。ただし、VLPモードのアクセスポイントに接続する場合は利用が可能です。

電波障害自主規制について

- 本製品は、VCCI自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合しており、その適合マークを本製品の電子銘板に表示しています。

電子銘板は、本製品で以下の操作を行うことで、ご確認いただくことができます。

ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]▶[規制ラベル]

FeliCaおよびNFCリーダー／ライター機能について

- 本製品のFeliCaおよびNFCリーダー／ライター機能は、電波法に規定する誘導式読み書き通信設備の型式指定を受けています。
- 使用周波数は13.56MHz帯です。周囲で他のFeliCaおよびNFCリーダー／ライター機能をご利用の場合、十分に離してお使いください。また、他の同一周波数帯を利用の無線局が近くにないことを確認してお使いください。
- 航空機内の利用は、事前に各航空会社へご確認ください。ご利用の国によっては利用が制限されている場合があります。その国／地域の法規制などの条件を確認の上、ご利用ください。
- 型式指定は、次の手順でご確認いただけます。ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]▶[規制ラベル]

GPS／ナビについて

現在地の正確な位置測定のため、スマートフォンが自動的に衛星の運行情報などのアシストデータを取得する機能(当該機能のサービス提供者にデータが送信されます)が搭載されており、アシストデータの取得にパケット通信料がかかる場合があります。

内蔵電池の交換について

内蔵電池は消耗品のため、保証対象外です。使用状況や動作環境によって異なりますが、充放電を繰り返すうちに劣化します。十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときや、内蔵電池が膨らんでいるときは新しい内蔵電池と交換する必要があります。

本製品の内蔵電池はお客様自身では交換できませんので、裏表紙のお問い合わせ先へご連絡いただき、内蔵電池の交換を依頼してください(有償)。

リサイクルについて

本製品に使用していますリチウムイオン電池はリサイクル可能な有益な資源です。リサイクルにご協力をお願いします。リサイクルについては裏表紙のお問い合わせ先まで、ご相談ください。



Li-ion00

■ 本製品を廃棄するときは

- 各自治体の廃棄ルールに従っていただきますようお願いいたします。自治体によって規則が異なりますので、お客様がお住まいの各自治体にご確認ください。
- プライバシー保護のため、事前に「すべてのデータを消去(初期設定にリセット)」を行って、システムメモリ内のすべてのデータを消去してください。

防水／防塵／耐衝撃性能

本製品は、SIMカード／microSDメモ리카ードトレイをしっかり閉じた状態で、IPX5※¹相当、IPX8※²相当の防水性能およびIP6X※³相当の防塵性能を有しています。また、MIL規格に準拠する試験※⁴をクリアした耐衝撃構造を採用しています。

- ※¹ IPX5とは、内径6.3mmの放水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5リットル/分の水を最低3分間放水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、電話機としての機能を有することを意味します。
- ※² IPX8とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.5mのところに電話機を静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに電話機としての機能を有することを意味します。
- ※³ IP6Xとは、保護度合いを指し、直径75μm以下の塵埃(じんあい)が入った装置に電話機を8時間入れても、内部に塵埃が侵入しない機能を有することを意味します。
- ※⁴ MIL規格準拠
米国防総省が制定したMIL-STD-810H(耐衝撃落下はMIL-STD-810G)に準拠した独自の試験を実施しています。

■ MIL規格準拠試験項目

試験項目	試験内容
防水(浸漬)	深さ約1.5mの水中に30分間浸漬させる試験
防水(雨滴)	高さ1mから15分間雨滴を落とす試験
耐衝撃(落下)	高さ1.22mから合板に製品を26方向で落下させる試験

試験項目	試験内容
耐振動	上下5Hz～500Hz、加速度1.08G、左右5Hz～500Hz、加速度0.21G、前後5Hz～500Hz、加速度0.76Gでそれぞれ60分の振動試験
防湿	連続10日間(湿度95%RH)の高湿度試験
高温保管(固定)	63℃に固定した連続72時間の高温保管試験
高温保管(変動)	30℃～63℃の温度変化において連続168時間の高温保管試験
高温動作(固定)	43℃に固定した5時間の高温動作試験
高温動作(変動)	30℃～43℃の温度変化において72時間の高温動作試験
低温動作	-21℃に固定した5時間の低温動作試験
低温保管	-33℃～-25℃の温度変化において連続72時間の低温保管試験
温度耐久(温度衝撃)	-21℃～43℃の急激な温度変化において連続3時間の温度耐久試験
低圧保管	連続2時間(57.2kPa/高度約4,572m相当)の低圧保管試験
低圧動作	連続2時間(57.2kPa/高度約4,572m相当)の低圧動作試験
氷結(結露)	-10℃で結露や霧を発生させ1時間維持し、25℃、95%RHで動作試験
氷結(氷結)	-10℃環境下で着氷した氷の厚さが6mmになるまで氷結させる試験

- 本製品の有する性能は試験環境下での確認であり、実際の使用時すべての状況での全機能の動作を保証するものではありません。また、すべての衝撃に対して、無破損、無故障を保証するものではありません。

■ シャープ独自試験項目

試験項目	試験内容
高温保管(固定)	70℃で連続72時間の高温保管試験
高温動作(固定)	50℃に固定した5時間の高温動作試験
温度耐久(温度衝撃)	-21℃～50℃の急激な温度変化において連続3時間の温度耐久試験
耐荷重	均等に約75kgfの耐荷重をかける試験
ハンドソープ	家庭用泡タイプのハンドソープを使って手洗い・すすぎの洗浄サイクル試験

- 上記の独自試験は、製品の品質を確認するために実施しています。本試験はすべての使用環境での動作を保証するものではありません。お客様の取り扱いの不備による故障と認められた場合は、保証の対象外となります。あらかじめご了承ください。

本製品が有する防水／防塵性能でできること

- 雨の中で傘をささずに通話ができます(1時間の雨量が20mm程度)。
- 汚れを洗い流すことができます。洗うときは、やや弱めの水流(6リットル/分以下、常温(5℃～35℃)の水道水)で蛇口やシャワーから約10cm離して洗います。SIMカード／microSDメモリカードトレイが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず手で洗ってください。洗ったあとは、水抜きをしてから使用してください(※P.13「水に濡れたときの水抜きについて」)。
- プールサイドで使用できます。ただし、プールの水をかけたり、プールの水に浸けたりしないでください。
- 風呂場で使用できます。
 - 常温の水道水以外の液体(温泉の湯や石けん、洗剤、入浴剤の入った水など)を付着させたり、湯船に浸けたりしないでください。
故障の原因となります。万が一、水道水以外の液体が付着したり、湯船に落としてしまった場合は、直ちに所定の方法で洗い流してください。
 - 風呂場では、室温は5℃～40℃、湿度は99%以下、使用時間は2時間以内の範囲でご使用ください。
なお、すべての機能の連続動作を保証するものではありません。
 - 水に濡れたあとは、必ず所定の方法(※P.13「水に濡れたときの水抜きについて」)で水抜き・自然乾燥を行ってください。
風呂場での使用後やカメラのレンズ内側などに結露が発生した場合も自然乾燥を行ってください。
 - 急激な温度変化は、結露の原因となります。
寒い場所から暖かい風呂場などに本製品を持ち込むときは、本体が常温になってから持ち込んでください。
また、風呂場で暖まった本製品に冷たい水をかけないでください。
故障の原因となります。

- 風呂場では絶対に充電を行わないでください。
- 風呂場の構造・環境によっては電波が届かず、通話、データ通信ができない場合があります。
- 濡れた手で操作をする場合、反応しなかったり、誤動作したりする可能性があります。
- 風呂場で、イヤホンや外部接続機器を接続して使用しないでください。
- ハンドソープで洗うことができます。
 - 本製品は、国内メーカー製の家庭用泡タイプのハンドソープを使って洗うことができます(シャープ株式会社調べ)。
その他(アルカリ性のハンドソープ、食器用洗剤、固形石けん、粉末石けんなど)の洗剤は使用しないでください。
本製品の有する性能は試験環境下での確認であり、すべての泡タイプのハンドソープで洗えることを保証するものではありません。
 - 本製品を洗う前に、完全に電源を切って、SIMカード／microSDメモリカードトレイがきちんと閉まっていることを確認してください。
 - 本製品を洗う際は、腕時計、指輪、付け爪などの装飾品は外してください。本製品に傷がつく恐れがあります。
 - 受話口(レシーバー)／スピーカー、送話口(マイク)、サブマイク、スピーカーに泡ハンドソープの成分が残っていると目詰まりが発生し、着信音や通話時の音質が低下する恐れがあります。また、外部接続端子は充電不良など故障の原因となります。しっかり洗い流してください。
 - 洗った後はよく水抜きをしてから乾いた清潔な布などで十分に拭き取ってください。十分に乾燥させて、水滴が残っていないことを確認してください。

ご利用にあたって

防水／防塵性能を維持するために、必ず次の点を確認してください。

- SIMカード／microSDメモリカードトレイをしっかりと閉じてください。開閉するときは、ゴムパッキンに無理な力を加えないように注意してください。
- SIMカード／microSDメモリカードトレイが浮いていないように完全に閉じたことを確認してください。
- 防水／防塵性能を維持するため、SIMカード／microSDメモリカードトレイはしっかりと閉じる構造となっております。無理に開けようすると爪や指などを傷つける可能性がありますので、ご注意ください。

- 防水／防塵性能を維持するため、異常の有無に関わらず、2年に1回、部品の交換をおすすめします。部品の交換は端末をお預かりして有料にて承ります。部品の交換については裏表紙のお問い合わせ先までご連絡ください。

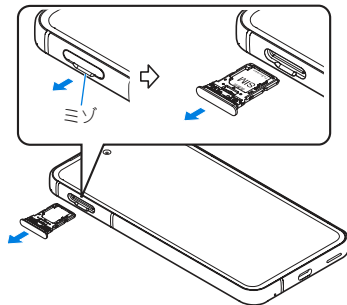
■ SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付けかた

- 端末は手でしっかり持ってください。

取り外すとき

1 ディスプレイ面を上向きにして、左側面上部にあるミゾに指の先をかけ、SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体から引き出す

- SIMカード／microSDメモリカードトレイは、ゆっくりと水平に引き出してください。強く引き出したり、斜めに引き出したりすると、破損の原因となります。

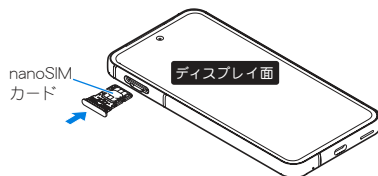


- SIMカード／microSDメモリカードトレイを引き出す際は、SIMカードやmicroSDメモリカードを落とさないようにご注意ください。

取り付けるとき

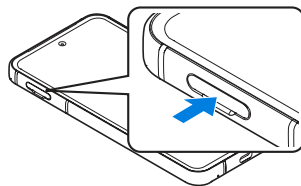
1 ディスプレイ面を上向きにして、SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体の左側面上部に差し込む

- SIMカード／microSDメモリカードトレイはSIMカードを取り付けた側を上向きにして、ゆっくりと水平に奥まで差し込んでください。
- SIMカード／microSDメモリカードトレイを裏表逆に差し込まないでください。裏表逆に差し込むと、SIMカード／microSDメモリカードトレイが破損する恐れがあります。



2 SIMカード／microSDメモリカードトレイをしっかりと押し、本体との間にすき間がないことを確認する

- SIMカード／microSDメモリカードトレイの差し込みが不十分な場合は、防水／防塵性能が損なわれたり、正常に動作しないことがあります。



注意事項

- 手が濡れているときや端末に水滴や異物がついているときには、SIMカード／microSDメモ리카ードトレイの開閉はしないでください。
- SIMカード／microSDメモ리카ードトレイはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ(髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など)が挟まると、液体や粉塵が入る原因となります。
- SIMカード／microSDメモ리카ードトレイが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切ってください。対処については、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。
- SIMカード／microSDメモ리카ードトレイと本体の接触面のゴムパッキンは防水／防塵性能を維持する上で重要な役割を担っています。はがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。ゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。
- SIMカード／microSDメモ리카ードトレイのすき間に、先の尖ったものを差し込まないでください。ゴムパッキンが傷つき、液体や粉塵が入る原因となります。
- 水中で端末を使用(キー操作を含む)しないでください。故障の原因となります。
- 規定以上の強い水流(6リットル/分を超える)を直接当てないでください。本製品はIPX5の防水性能を有しておりますが、故障の原因となります。
- 常温(5℃～35℃)の水以外の液体をかけたり、浸けたりしないでください。常温の水以外の液体をかけたり、浸けたりした場合は、そのまま使用せず、常温の水で洗ってください。

- 洗濯機などで洗わないでください。
- 結露防止のため、寒い場所から暖かい場所へ移動するときは端末が常温になってから持ち込んでください。
- 温泉の湯や石けん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対に浸けないでください。
- 熱湯に浸けたり、サウナで使用したり、温風(ドライヤーなど)を当てたりしないでください。
- 海水やプールの水には浸けないでください。
- 砂／泥の上に直接置かないでください。
- 万が一、塩水や海水、飲料、調味料、食品、泥や土などの異物が付着した場合には、すぐに洗い流してください。乾燥して固まると、汚れが落ちにくくなり、傷や故障の原因となります。
- 濡れたまま放置しないでください。寒冷地で凍結するなど、故障の原因となります。
- 本製品は水に浮きません。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水／防塵性能の劣化を招くことがあります。
- 受話口(レシーバー)／スピーカー、サブマイク、送話口(マイク)、スピーカーに水滴を残さないでください。通話不良となる恐れがあります。
- 受話口(レシーバー)／スピーカー、サブマイク、送話口(マイク)、外部接続端子、スピーカーなどを先の尖ったものでつつかないでください。
- 端末が水に濡れた状態で外部接続機器を挿さないでください。故障の原因となります。
- 指定の充電用機器(別売)やオプション品は防水／防塵性能を有していません。風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水回りでは使用しないでください。

- 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

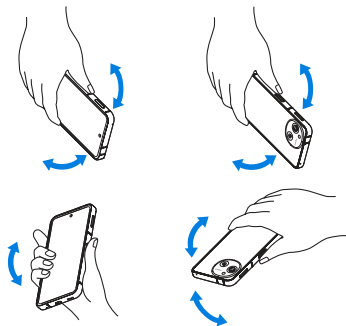
水に濡れたときの水抜きについて

端末を水に濡らした場合、拭き取れなかった水があとから漏れてくる場合がありますので、次の手順で水抜きを行ってください。

- 1 端末表面の水分を乾いた清潔な布などでよく拭き取る



2 端末をしっかりと持ち、20回程度水滴が飛ばなくなるまで振る

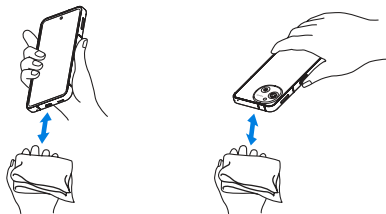


送話口(マイク)、外部接続端子、スピーカーの水抜きのために送話口(マイク)、外部接続端子、スピーカーを下にして振る

受話口(レシーバー)／スピーカー、サブマイクの水抜きのために受話口(レシーバー)／スピーカー、サブマイクを下にして振る

3 受話口(レシーバー)／スピーカー、キー、サブマイク、送話口(マイク)、外部接続端子、スピーカー、空気抜き部(カメラ飾り)などのすき間に溜まった水は、乾いた清潔な布などに端末を軽く押し当てて拭き取る

- 各部の穴に水が溜まっていることがありますので、開口部に布などを当て、軽くたたいて水を出してください。



4 端末から出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取り、約3時間自然乾燥させる

- 水を拭き取ったあとに本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。
- 水が抜けない場合は音が聞こえづらいことがありますので、再度布などを当て、軽くたたいて水を出してください。

ご使用前の準備

SIMについて

本製品はSIMカードとeSIM(ダウンロード型SIM)に対応しています。SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、モバイルデータ通信や通話の発信、SMSの送信などの操作にどちらのSIMを使うか選択できます。ただし、SIMカードとeSIMの同時利用については、ご利用になれるサービス、機能などが制限される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- SIMカードを取り付けていない、かつeSIMを設定していない場合は、電話、パケット通信などの機能を利用できません。
- 日本国内では、SIMカードを取り付けていない、かつeSIMを設定していない場合は、緊急通報番号(110番、119番、118番)に発信できません。
- SIMには、PINコードという暗証番号があります(※P.23「PINコード」)。

SIMカード

SIMカードは、お客様の電話番号などの情報が記憶されているICカードです。

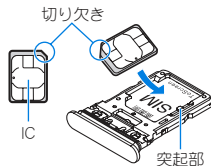
■ 取り付けかた

- SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付け方法について詳しくは、「SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付けかた」(※P.10)をご参照ください。
- SIMカードは必ずSIMカード／microSDメモリカードトレイに取り付けてから本体に差し込んでください。

1 SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体から取り外す

2 SIMカードのIC面を上向きにして、SIMカード／microSDメモリカードトレイの突起部に押し当てながら取り付ける

- 切り欠きの方向に注意して、SIMカード／microSDメモリカードトレイの「SIM」の刻印がある側に取り付けてください。
- SIMカードは、SIMカード／microSDメモリカードトレイから浮かないように取り付けてください。浮き上がった状態のまま本体に取り付けると、破損の原因となります。



3 ディスプレイ面を上向きにして、SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体に取り付ける

■ 取り外しかた

- SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付け方法について詳しくは、「SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付けかた」(P.10)をご参照ください。

1 SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体から取り外す

2 SIMカードをSIMカード／microSDメモリカードトレイから取り外す



3 ディスプレイ面を上向きにして、SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体に取り付ける

- SIMカードを取り扱うときは、ICに触れたり傷つけたりしないようにご注意ください。また、無理に取り付けようとしたり、取り外そうとするとSIMカードが破損したり、SIMカード／microSDメモリカードトレイが変形したりする恐れがありますので、ご注意ください。
- SIMカードの詳しい取り扱いについては、SIMカードの取扱説明書を参照してください。
- 取り外したSIMカードは、なくさないようにご注意ください。

IMEI情報(端末識別番号)について

- SIMカード／microSDメモリカードトレイにIMEI情報が刻印されています。裏表紙のお問い合わせ先にお問い合わせいただく際に、IMEI情報が必要となる場合にご確認ください。
- 本製品を操作してIMEIを確認することもできます。ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]▶[IMEI(SIM スロット 1)(メイン)]／[IMEI(SIM スロット 2)]

eSIM

本製品は、お客様の電話番号などの情報を登録するeSIMに対応しています。eSIMのご利用には設定が必要です。

■ eSIMのSIM情報を設定する

はじめてeSIMを利用するときは、通信に必要なSIM情報をダウンロードして設定する必要があります。

- eSIMの追加に必要な情報については、eSIMの提供元までお問い合わせください。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[ネットワークとインターネット]▶[SIM]

- SIMカードを取り付けまたは、eSIM情報の設定を既にしていない場合、[SIMを追加]をタップしてください。

2 [eSIMを設定]／[他のデバイスからSIMを移行する]

- 以降は画面の指示に従って操作してください。

- お客様ご自身で、eSIMに登録されたデータは、microSDメモリーカード、パソコン、クラウドなどにバックアップ、別にメモを取るなどして保管してください。万が一登録されたデータが消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負い兼ねますのであらかじめご了承ください。

microSDメモリーカード

本製品内のデータをmicroSDメモリーカードに保存したり、microSDメモリーカード内のデータを端末に取り込んだりすることができます。

- 本製品が対応するmicroSDメモリーカードの情報については、下記URLからアクセスすることができます。
<https://k-tai.sharp.co.jp/support/>
- 端末にmicroSDメモリーカードを挿入した直後(端末で使用するための情報を書き込み中)や、microSDメモリーカード内のデータ編集集中に電源を切らないでください。データが壊れることや正常に動作しなくなることがあります。
- 初期化されていないmicroSDメモリーカードを使うときは、端末で初期化する必要があります。パソコンなどで初期化したmicroSDメモリーカードは、端末では正常に使用できないことがあります。
- 他の機器からmicroSDメモリーカードに保存したデータは、端末で表示、再生できないことがあります。また、端末からmicroSDメモリーカードに保存したデータは、他の機器で表示、再生できないことがあります。
- microSDXCメモリーカードは、SDXC対応機器でのみご利用いただけます。SDXC非対応の機器にmicroSDXCメモリーカードを差し込むと、microSDXCメモリーカードに保存されているデータが破損することなどがあるため、差し込まないでください。
- データが破損したmicroSDXCメモリーカードを再度利用するためには、SDXC対応機器にてmicroSDXCメモリーカードの初期化をする必要があります(データはすべて削除されます)。
- SDXC非対応機器とのデータコピーについては、microSDHCメモリーカードもしくはmicroSDメモリーカードなど、コピー先/コピー元の機器の規格に準拠したカードをご利用ください。

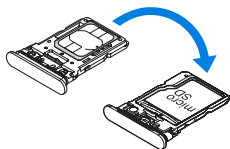
- microSDメモリカードに保存されたデータはバックアップを取るなどして別に保管してください。万一、保存されたデータが消失または変化しても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 取り付けかた

- SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付け方法について詳しくは、「SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付けかた」(P.10)をご参照ください。
- microSDメモリカードは必ずSIMカード／microSDメモリカードトレイに取り付けてから本体に差し込んでください。

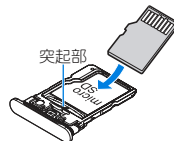
1 SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体から取り外す

2 SIMカード／microSDメモリカードトレイの裏表を反転する



3 microSDメモリカードの金属端子面を上向きにして、SIMカード／microSDメモリカードトレイの突起部に押し当てながら取り付ける

- microSDメモリカードの向きに注意して、SIMカード／microSDメモリカードトレイの「microSD」の刻印がある側に取り付けてください。
- microSDメモリカードは、SIMカード／microSDメモリカードトレイから浮かないように取り付けてください。浮き上がった状態のまま本体に取り付けると、破損の原因となります。



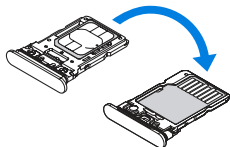
4 ディスプレイ面を上向きにして、SIMカードを取り付けた側が上向きになるようにSIMカード／microSDメモリカードトレイを本体に取り付ける

■ 取り外しかた

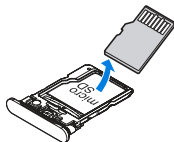
- SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付け方法について詳しくは、「SIMカード／microSDメモリカードトレイの取り外し／取り付けかた」(P.10)をご参照ください。

1 SIMカード／microSDメモリカードトレイを本体から取り外す

2 SIMカード／microSDメモリカードトレイの裏表を反転する



3 microSDメモリカードをSIMカード／microSDメモリカードトレイから取り外す



4 ディスプレイ面を上向きにして、SIMカードを取り付けた側が上向きになるようにSIMカード／microSDメモリカードトレイを本体に取り付ける

充電

お買い上げ時は、内蔵電池は十分に充電されていません。必ず充電してからご使用ください。

- 本製品に対応する最新の充電用機器については、下記URLからアクセスすることができます。
<https://k-tai.sharp.co.jp/support/>

■ 充電時のご注意

- 充電時間や十分に充電したときの利用可能時間の目安についてはP.77「主な仕様」
- 端末の電源を入れておいても充電できます（通電中は電池マークに⚡が重なって表示されます）。
- 充電中にロック画面や設定画面に表示される充電完了までの時間は、目安です。
- 充電完了後、指定の充電用機器（別売）を長時間挿したままにすると、充電量が減少します。この場合、充電用機器から再び充電を行います。充電用機器を端末から取り外すタイミングによっては、内蔵電池が本来の充電量より少ない場合があります。
- 充電完了後でも、端末を長時間放置している場合は電池残量が減少していることがあります。
- 電池切れの表示がされたあと、電源が入らない場合は、しばらく充電してください。
- 充電中に電源を入れることができない場合があります。このときは、しばらく充電してから電源を入れてください。
- 電池残量が十分ある状態で、頻繁に充電を繰り返すと、電池の寿命が短くなる場合がありますので、ある程度使用してから（電池残量が減ってからなど）充電することをおすすめします。

- 本製品の温度が高くなった場合、充電完了前でも自動的に充電を停止する場合があります。充電ができる温度になると自動的に充電を再開します。

ACアダプターで充電

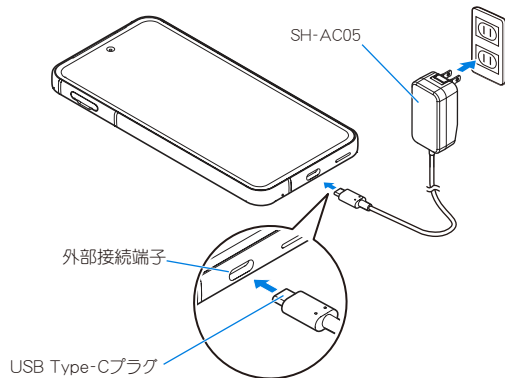
必ず利用するACアダプターの取扱説明書を参照してください。

- 次の操作はACアダプター SH-AC05（別売）を使用して説明しています。

1 ACアダプターの電源プラグを起こし、コンセントに差し込む

- 根元まで確実に差し込んでください。

2 ACアダプターのUSB Type-Cプラグを、端末の外部接続端子に水平に差し込む



3 充電が完了したら、USB Type-Cプラグを端末の外部接続端子から水平に抜く

4 電源プラグをコンセントから抜く

USBケーブルで充電

端末とパソコンをUSB Type-Cケーブル(市販品)などで接続すると、端末を充電することができます。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

1 (電源キー／指紋センサー) (3秒以上)

- はじめて端末の電源を入れたときは初期設定を行ってください(☞ P.22「初期設定」)。

■ 電源を切る

1 (電源キー／指紋センサー) + (+)

- 電源メニューが表示されます。

2 [電源を切る]

- [再起動]をタッチすると、本製品の電源が切れたあと、自動的に起動します。

■ 画面を点灯／消灯する

(電源キー／指紋センサー)を押したときや端末を一定時間使用しなかったときは、画面が消灯します。

画面が消灯しているときに(電源キー／指紋センサー)を押すと、画面が点灯します。

■ 画面ロックを解除する

画面を点灯すると、ロック画面が表示されます。

- [🔒]が表示されている場合:画面を上からスワイプすると、画面ロックが解除されます。
- [🔒]が表示されている場合:画面を上からスワイプして[画面ロック]で設定したパスワードなどを入力すると、画面ロックが解除されます。



ロック画面

初期設定

はじめて端末の電源を入れたとき、すべてのデータを消去を実行後は、初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って設定してください。

アプリとデータのコピーについて

アプリとデータのコピーを表示するには、Wi-Fiへの接続およびGoogleアカウントの設定が必要です。

付属のクイックスイッチアダプター(試供品)を使用してデータ引き継ぎを行う場合は、アプリとデータのコピーの画面が表示された際に中央の図を5回タップしてください。



■ 本製品で利用する暗証番号について

本製品には、便利にお使いいただくための各種機能に、暗証番号の必要なものがあります。

- 各種機能用の暗証番号、PINコード入力時は、[・]で表示されます。

各種暗証番号に関するご注意

- 設定する暗証番号は「生年月日」、「電話番号の一部」、「所在地番号や部屋番号」、「1111」、「1234」などの他人にわかりやすい番号はお避けください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。万が一、暗証番号が他人に知られ悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 各種暗証番号を忘れてしまった場合は、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。

■ 画面ロック用PIN/パスワード

本製品の[画面ロック]を使用するための暗証番号です。

■ PINコード

PINコードは、第三者によるSIMカード／eSIMの無断使用を防ぐため、SIMカードを取り付ける、または本製品の電源を入れるたびに使用者を認識するために入力する4～8桁の暗証番号です。PINコードを入力することにより、発着信および端末操作が可能となります。

- 別の端末で利用していたSIMカード／eSIMをお使いになる場合は、以前にお客様が設定されたPINコードをご利用ください。
- PINコードの入力を3回連続して間違えると、PINコードがロックされて使えなくなります。この場合は、「PINロック解除コード」でロックを解除してください。

■ PINロック解除コード(PUKコード)

PINロック解除コードは、PINコードがロックされた状態を解除するための8桁の番号です。なお、お客様ご自身では変更できません。

- PINロック解除コードの入力を、10回連続して間違えるとSIMカード／eSIMが完全にロックされます。その場合は、SIMカードの販売元、eSIMの提供元までお問い合わせください。

PINコードを設定する

電源を入れたときにPINコードを入力することで、不正使用から保護できます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定] ▶[セキュリティとプライバシー]▶[その他の セキュリティとプライバシー]▶[SIM ロック]

- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、SIMの名前が表示されたタブをタッチして、設定するSIMを選択してください。

2 [SIM をロックする]をONにする

3 PINコードを入力▶[OK]

- 日本国内では、SIMカードを取り付けていない、かつeSIMを設定していない場合や、PINコードロック中、PINロック解除コードの入力画面では緊急通報番号(110番、119番、118番)に発信できません。
- 設定はSIMカード／eSIMに保存されます。

PINコードを変更する

[SIM をロックする]を設定しているときのみ変更できます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定] ▶[セキュリティとプライバシー]▶[その他の セキュリティとプライバシー]▶[SIM ロック]

- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、SIMの名前が表示されたタブをタッチして、設定するSIMを選択してください。

2 [SIM PINを変更]

3 現在のPINコードを入力▶[OK]

4 新しいPINコードを入力▶[OK]

5 もう一度新しいPINコードを入力▶[OK]

PINロックの解除

1 PINロック中画面でPINロック解除コードを入力

2 新しいPINコードを入力

3 もう一度、新しいPINコードを入力

基本操作

基本操作

タッチパネルの操作について説明します。

タッチパネルの操作

ディスプレイ(タッチパネル)を使用するための操作について説明します。

- 利用中の機能や画面によって操作は異なります。

タッチパネル利用時のご注意

- タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先の尖ったもの(爪/ボールペン/ピンなど)を押し付けたりしないでください。
- 次の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
 - 手袋をしたままでの操作*
 - 爪の先での操作
 - 異物を操作面に乘せたままでの操作
 - 保護シートやシールなどを貼った操作
 - タッチパネルが濡れたままでの操作
 - 指が汗や水などで濡れた状態での操作
 - 水中での操作

※ [タッチ感度アップ] がONの場合、手袋を装着したまま使用できます。

- 確認画面などの表示中に、確認画面やステータスバー以外をタッチすると操作が中止されることがあります。

■ タッチ

画面に表示されるアイコンや項目に触れて指を離すと、選択・決定を行います。



■ ロングタッチ

利用中の機能や画面によっては、タッチパネルに触れたままにするともメニューが表示されることがあります。

■ スライド(スワイプ)/ドラッグ

タッチパネルに触れたまま指を動かすと、画面をスクロールしたり、アイコンやウィジェットなどを目的の位置まで移動したりできます。

また、メニューや項目に間違っ触れたときにメニューや項目から離れるように指を動かすと、選択を中止できます。



■ フリック

ホーム画面などでタッチパネルをはらうように指を動かすと、ページの切り替えができます。



■ ピンチアウト／ピンチイン

利用中の機能や画面によっては、2本の指でタッチパネルに触れ、2本の指の間を広げる（ピンチアウト）／狭める（ピンチイン）ように指を動かすと、画面の拡大／縮小などができます。



画面表示／アイコン

画面上部のステータスバーに表示されるアイコンで、端末の状態や不在着信の有無など、さまざまな情報を知ることができます。ステータスパネルを表示させると詳細情報を確認できます。

アイコンの見かた

- 表示されるアイコンには、次の2種類があります。
 - お知らせアイコン: 不在着信や新着メールなどをお知らせします。
 - ステータスアイコン: 電池残量や電波状態など端末の状態を表します。



- お知らせや端末の状態を表すアイコンが複数あり、表示範囲内に表示できない場合は、[・]が表示されます。ステータスパネルを表示して確認してください。

■ 主なお知らせアイコン一覧

[!]: 電池残量が約20%以下

[✉]: 不在着信あり (P.39「通話履歴」)

[💬]: 新着SMSあり

[✉]: 新着Gmail™あり

	エラー表示
●	何らかのエラーが発生したときに表示されます。
	データ通信が無効
●	データ使用量が上限に達した場合に表示されます。
	アラーム情報あり
	カレンダーのスケジュール通知あり
	電話表示 (P.34「電話について」)
	発信中／着信中
	通話中
	保留中
	伝言あり (P.41「電話アシスタント」)
	microSDメモリカード表示
	本体メモリの空き容量低下
	Bluetooth表示 (P.65「Bluetooth®機能」)
	Bluetooth機器からの登録要求／接続要求あり
	データ受信要求あり
	データ送受信表示
	送信表示
	受信表示
	アプリのアップデートあり
	パブリック ネットワークあり
	ソフトウェアアップデート情報あり (P.74「システムアップデート」)

: [タッチ感度アップ] がON

■ 主なステータスアイコン一覧

～: 電池残量表示

- 通電中は電池マークに[]が重なって表示されます。
- 電池マークの右に電池残量がパーセントで表示されます。パーセントの表示／非表示はバッテリーの[バッテリー残量]で切り替えられます。

電波状態表示

～: レベル表示 (5段階)

: 圏外

- データ受信中は[]、データ送信中は[]が電波マークに重なって表示されます。
- 接続したネットワークによっては、電波マークの左側に[5G+]／[5G]／[4G]などネットワークに応じたマークが表示されます。
- 圏外ではなくても音声サービスやモバイルデータ通信が利用できない場合があります。
 - 音声サービス利用不可能: 電波マークの左上に[]が小さく表示
 - モバイルデータ通信利用不可能: 電波マークの右下に[]が小さく表示
- 国際ローミング中は、電波マークの左上に[R]が小さく表示されます。
- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、電波状態表示がそれぞれのSIMに対して表示されます。左側がSIMカード、右側がeSIMに関する表示です。

Wi-Fi電波状態表示

 ~ : レベル表示 (5段階)

: インターネット 接続されていないアクセスポイントに接続中

- データ受信中は[▼]、データ送信中は[▲]がWi-Fi電波マークに重なって表示されます。

: 機内モード中

: [Wi-Fiテザリング]が有効

マナーモードのモード表示

: マナーモード (バイブ)

: マナーモード (ミュート)

- は[バイブレーション モード]のときにアイコンを常に表示]をONにすると表示されます

: サイレント モード設定中

通話中表示 (P.38「通話中の操作」)

: ハンズフリー通話中

: ミュートに設定中

: Bluetooth通信中 (P.65「Bluetooth®機能」)

: 位置情報をGPSで測位中

 / : カメラ/マイク利用表示

- カメラ/マイクの利用開始時に表示されます。カメラ/マイクを利用中は緑色の点で表示されます。
-

ホーム画面

ホーム切替

利用するホームアプリを切り替えます。

- お買い上げ時は、端末に次のホームアプリが登録されています。
 - AQUOS Home
ホーム画面(デスクトップシート／お気に入りトレイ)とアプリ一覧画面で構成されたホームアプリです。
 - AQUOSかんたんホーム
アイコンと文字が大きく表示されるホームアプリです。
 - ・ ウィジェット／ショートカットを配置するホーム画面、ホーム画面右下の[アプリ]をタッチして表示されるアプリ一覧画面で構成されます。
 - ・ ホーム画面でアプリアイコンなどがない部分、または右下の[アプリ]をロングタッチすると、壁紙変更／ウィジェット追加／ホームの設定を行うメニューを利用できます。
 - ・ よく連絡する相手をホーム画面下部の楽ともリンクに登録することができます。
 - AQUOSジュニアホーム
お子さまのご使用に適したシンプルなホームアプリです。
 - ・ ウィジェット／ショートカットを配置するホーム画面、ホーム画面を上へスワイプして表示されるアプリ一覧画面で構成されます。
 - ・ ホーム画面でアプリアイコンなどがない部分をロングタッチすると、壁紙やアイコン、フォントなどの変更／ウィジェット追加／ホームの設定を行うメニューを利用できます。

- ・ よく連絡する相手をホーム画面下部の楽ともリンクに登録することができます。

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]
▶[ホーム切替]▶ホームアプリを選ぶ

AQUOS Home

AQUOS Homeは、ホーム画面(デスクトップシート／お気に入りトレイ)とアプリ一覧画面で構成されたホームアプリです。

ホーム画面のデスクトップシートにはアプリ／機能のショートカット／ウィジェット、お気に入りトレイにはアプリ／機能のショートカットを登録することができます。アプリ一覧画面にはインストールされているアプリやおすすめのアプリが表示されます。

AQUOS Homeの見かた

ホーム画面を上にはスワイプするとアプリ一覧画面に切り替わります。

- 本書に記載しているホーム画面／アプリ一覧画面の内容は、ご利用の通信事業者によって表示が異なる場合があります。
- ホーム画面でアプリアイコンなどが無い部分をロングタッチ▶[アプリのリスト]と操作しても、アプリ一覧画面に切り替えることができます。



ホーム画面



アプリ一覧画面

1 ウィジェット

- 時計エモパーウィジェットでは、日付や時刻、天気と合わせて、コメントが表示されます。タッチするとエモパーを起動できます。

2 デスクトップシート

- 左右にフリックするとページを切り替えることができます。

3 フォルダ

- フォルダをタッチ▶フォルダ名を選ぶと、フォルダ名を変更できます。
フォルダをタッチしてインジケータが表示されている場合は、左右にフリックするとページを切り替えることができます。

4 ページインジケータ

- デスクトップシートのページ枚数と現在の表示位置を表示します。

※画面をフリックするときのみ表示されます。

5 お気に入りトレイ

- お気に入りのアプリや機能のショートカットを登録して、すばやく起動させることができます。

6 アプリ

7 Google 検索バー

- Google™ 検索やGoogle レンズ™を起動できます。

8 アプリを検索

- インストールされているアプリの検索などができます。

9 おすすめアプリ

- 本製品の使用状況などに応じて、おすすめのアプリを表示します。

ホーム画面の管理

■ アプリ／ウィジェット／フォルダの移動

1 ホーム画面／アプリー覧画面でアプリ／ウィジェット／フォルダをロングタッチ

2 移動する位置にドラッグして、指を離す

- 各デスクトップシートの左右端までドラッグすると、ページを移動できます。また、最終ページの右端にドラッグすると、新しいページを追加できます。
- 他のアプリアイコンと重なる位置にドラッグすると、フォルダを作成できます。
- ホーム画面のアプリ／ウィジェット／フォルダを[✕(削除)]までドラッグするとホーム画面から削除できます。ホーム画面／アプリー覧画面のアプリを[🗑(アンインストール)]までドラッグするとアンインストールできます。

- ホーム画面のアプリを削除してもアプリはアンインストールされません。
- アプリー覧画面のアプリをロングタッチしてドラッグすると、画面上部に[ホーム画面に追加]が表示されます。[ホーム画面に追加]までドラッグすると、ホーム画面にアプリを登録できます。

■ ウィジェットの追加

- 1 ホーム画面でアプリアイコンなどがない部分をロングタッチ▶[ウィジェット]
- 2 アプリをタッチ▶ホーム画面に追加したいウィジェットをロングタッチ
 - ホーム画面が表示されます。
- 3 追加する位置にドラッグして、指を離す

機能のショートカットの利用

- 1 ホーム画面／アプリ一覧画面でアプリをロングタッチして、指を離す
- 2 機能のショートカットを選ぶ
 - 利用できる機能のショートカットはアプリによって異なります。
 - 機能のショートカットをロングタッチ▶登録する位置にドラッグして、指を離すとホーム画面に機能のショートカットを登録できます。

壁紙の設定

- 1 ホーム画面でアプリアイコンなどがない部分をロングタッチ▶[壁紙とカスタマイズ]
 - 2 [壁紙]
 - 3 表示された画像やアプリから設定する壁紙を選ぶ
 - 以降は画面の指示に従って操作してください。
- [ロック・ホームフォトシャッフル]を利用すると、壁紙がランダムに切り替わるよう設定できます。

ホーム画面の設定

1 ホーム画面でアプリアイコンなどがない部分を ロングタッチ▶[AQUOS Home設定]

2 項目を選ぶ

- **ホーム画面グリッド**: ホーム画面・アプリ一覧画面に表示するアプリアイコンの数を設定します。
- **通知ドット**: アプリの通知があるときに、アイコンの右上に通知ドット(点)を表示するかなど、通知について設定します。
- **通知ドットに件数表示**: 通知ドット(点)に件数を表示するか設定します。
- **ホーム画面にアプリのアイコンを追加**: 新しいアプリをダウンロードしたときにホーム画面にアプリアイコンを追加するか設定します。
- **Google アプリの表示**: ホーム画面の一番左のページを右にフリックしたときに、「Google」アプリを表示するか設定します。
- **おすすめのアプリを表示**: アプリ一覧画面におすすめアプリを表示するか設定します。
- **Google検索の表示**: お気に入りトレイの下にGoogle 検索バーを表示するか設定します。
- **ホーム画面の回転を許可**: AQUOS Homeを横表示でも利用するか設定します。

電話／連絡先

電話について

電話や連絡先を利用したり、通話中や発着信時の動作などについて設定できます。

- 本製品の「電話」アプリは、お使いいただいている中で品質改善や機能の追加などさまざまなアップデートを行うことがあります。アップデートされた場合の変更点や機能について詳しくは、ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]▶[ホーム]▶[≡]▶[ヘルプとフィードバック]と操作し、内容をご確認ください。

電話をかける

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]

- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、[ホーム]▶[≡]▶[設定]▶[通話アカウント]▶[発信先]で発信時に使用するSIMを設定できます。

2 [キーパッド]▶電話番号を入力

- 同一市内でも、必ず市外局番から入力してください。
- 電話番号の前に「186」/「184」を付けると、その発信に限り番号通知/番号非通知に設定して発信できます。



1 新しい連絡先を作成

- 入力した電話番号を連絡先に新規登録します。

2 連絡先に追加

- 入力した電話番号を連絡先に追加登録します。

3 メッセージを送信

- 入力した電話番号を宛先にしてSMS(メッセージ)を作成します。

4 メニュー

- 2秒間の停止や待機を追加できます。

5 キーパッド

6 発信

- 電話をかけます。また、発信履歴がある場合、電話番号未入力のときにタッチすると最新の発信履歴が入力されます。

7 電話番号入力欄

8 削除

- 最後に入力した数字を1桁削除します。ロングタッチすると、すべての数字を削除します。電話番号入力欄をタッチしてカーソルを表示した場合は、カーソル左側の数字を1桁削除します。

3 [音声通話]

4 通話が終了したら

- 髪の毛の上から受話口を当てて通話すると、近接センサーが正常に動作しないことがあります。画面が点灯したままとなり、誤って画面に触れることによって、通話が切れる場合があります。

VoLTEについて

- VoLTEは、通話を高品質で利用することができます。
- VoLTEのご利用には、本製品と通話相手の端末が以下の条件を満たす必要があります。
 - VoLTE対応機種であること
 - ご契約の通信事業者がVoLTEに対応していること※
 - VoLTE対応サービスエリア内であること※
 - 優先ネットワークの種類が[5G(推奨)]／[4G]であること
 - [4G 回線による通話]がONであること※ご契約の通信事業者により、通話相手が同一通信事業者の回線である必要があります。
※VoLTE対応サービスエリア外は、VoLTEを利用できません。

ブッシュ信号の入力

電話番号に続いて停止(,)／待機(;)を入力すると、銀行の残高照会やチケットの予約サービスなど、通話中に番号を追加入力する必要があるサービスを利用する際、メインの電話番号と追加番号を同時に発信できます。

■ 2秒間の停止を追加

メインの電話番号をダイヤルしたあと、自動的に2秒間一時停止してから、追加番号をダイヤルします。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]
▶[キーパッド]

2 電話番号を入力▶[⋮]▶[2秒間の停止を追加]

3 送信する番号を入力▶[音声通話]

■ 待機を追加

メインの電話番号をダイヤルしたあと、自動的に待機し追加番号の送信確認画面が表示されます。[はい]をタッチすると追加番号をダイヤルします。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]
▶[キーパッド]

2 電話番号を入力▶[⋮]▶[待機を追加]

3 送信する番号を入力▶[音声通話]

4 通話中に[はい]

緊急通報

緊急通報	電話番号
警察への通報	110
消防・救急への通報	119
海上での通報	118

- 日本国内の緊急通報受理機関に接続する場合は、VoLTE(LTEネットワーク)のみ利用できます。
- 本製品は、「緊急通報位置通知」に対応しております。
110番、119番、118番などの緊急通報をかけた場合、発信場所の情報(位置情報)が自動的に警察機関などの緊急通報受理機関に通知されます。お客様の発信場所や電波の受信状況により、緊急通報受理機関が正確な位置を確認できないことがあります。
なお、「184」を付加してダイヤルするなど、通話ごとに非通知とした場合は、位置情報と電話番号は通知されませんが、緊急通報受理機関が人命の保護などの事由から、必要であると判断した場合は、お客様の設定にかかわらず、機関側がGPSを利用した位置測位による正確な位置情報と電話番号を取得することがあります。
また、「緊急通報位置通知」の導入地域／導入時期については、各緊急通報受理機関の準備状況により異なります。
- 日本国内では、SIMカードを取り付けていない、かつeSIMを設定していない場合や、PINコードロック中、PINロック解除コードの入力画面では緊急通報番号(110番、119番、118番)に発信できません。

- 本製品から110番、119番、118番通報の際は、携帯電話からかけていることと、警察・消防機関側から確認などの電話をする場合があるため、電話番号を伝え、明確に現在地を伝えてください。
また、通報は途中で通話が切れないように移動せず通報し、通報後はすぐに電源を切らず、10分程度は着信のできる状態にしておいてください。
- かけた地域により、管轄の消防署・警察署に接続されない場合があります。
- 着信拒否の設定を行っている場合に緊急通報番号(110番、119番、118番)に発信すると、緊急通報受理機関からの着信を受けるため、着信拒否の設定は自動的に解除されます。緊急通報番号への発信後、[ブロック中の電話番号]から解除された着信拒否の設定を元に戻すことができます(※P.43「着信拒否の設定」)。
- 一部のネットワークでは、緊急通報が利用できない場合があります。
- 着信拒否を設定した状態で緊急通報を発信すると、緊急通報受理機関からの着信を受けるため、着信拒否の設定は自動的に約2時間解除されます。緊急通報後、次の操作で解除された着信拒否設定を元に戻すことができます。
ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]▶[ホーム]▶[≡]▶[設定]▶[ブロック中の電話番号]▶[再度有効にする]

電話を受ける

- [迷惑電話の対策]を利用すると、連絡先に登録されていない相手から着信したときに、注意喚起のメッセージを表示したり自動音声で応答したりすることができます。

1 電話がかかってくると、着信音が鳴る

2 電話を受ける



1 クイック返信

- タッチすると、着信を拒否し、選択したメッセージをSMSとして相手に送信します。

2 応答

- [応答]までドラッグすると、電話を受けます。
- [拒否]までドラッグすると、着信を拒否します。

3 代わりに聞いときます

- タッチすると、応答メッセージを再生して相手の方の音声を伝言として録音します。

4 メニュー

- 利用できる機能(メニュー)を表示します。

3 通話が終了したら[]

- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、着信が経由しているSIMが表示されます。

■ 画面を表示中に電話を受ける

ロック画面以外の画面を表示中に電話がかかってくると、着信通知が表示されます。通知を利用して電話を受けることができます。

1 電話がかかってくると、画面上部に着信通知が表示される

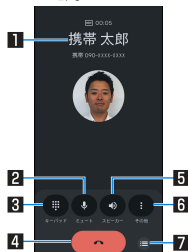
2 [応答]

- 着信通知をタッチすると、着信画面を表示できます。

通話中の操作

通話中は利用状況に応じてハンズフリーの利用や通話音量の調節などの操作ができます。

- [Vocalist] を利用すると、通話中の周囲の雑音を抑えることができます (P.59「Vocalist」)。



1 相手の名前や電話番号

2 ミュート

- 通話中の電話をミュート／ミュート解除にします。

3 キーパッド

- ブッシュ信号の入力ができます。

4 終了

- 通話を終了します。

5 スピーカー

- ハンズフリーで通話ができます。
- Bluetooth機器を接続している場合は音声の出力先を設定します。

6 その他

- タッチすると、次のメニューが表示されます。
 - ・ 通話を追加: 通話中の電話を保留にして、別の相手に発信します。通話を追加後に表示される[切り替え]で、通話相手を切り替えることができます。
 - ・ 保留: 通話中の電話を保留にします。通話の保留中に表示される[停止]で、保留を解除できます。

7 メニュー

- 利用できる機能(メニュー)を表示します。

- ハンズフリーで通話するには次の内容にご注意ください。
 - ・ 送話口から約20～40cmが最も通話しやすい距離です。なお、周囲の騒音が大きい場所では、音声が届かないなど良好な通話ができないことがあります。
 - ・ 屋外や騒音が大きい場所、音の反響が大きい場所で通話を行うときは、イヤホンマイクをご利用ください。
 - ・ ハンズフリー通話中、音が割れて聞き取りにくいときは、通話音量を下げてください。
- [通話を追加]と[保留]をお使いになる場合、あらかじめご利用の通信事業者との契約が必要となります。詳しくは、通信事業者にお問い合わせください。
なお、通信事業者によっては、これらの機能を提供していない場合もあります。
- [通話を追加]をタッチして、通話を追加後に表示される[統合]はご利用になれません。

■ 通話音量調節

1 通話中に[+] / [-]

■ 電話アシスタントで通話中の音声を録音

通話中の音声を通話音声メモとして録音します。

1 通話中に[●] ▶ [通話音声メモ]

2 [停止]

通話履歴

1 ホーム画面 ▶ 「アプリ一覧画面」を表示 ▶ [電話] ▶ [ホーム]



1 フィルター

- 選択したフィルターに合わせて、通話履歴の表示／非表示を切り替えます。
- 左右にスライドすると、隠れているフィルターを表示します。

2 お気に入り

- タッチするとお気に入りの連絡先を表示します。

3 相手の名前／電話番号

- タッチすると、連絡先への登録やメッセージの送信、通話履歴の詳細の確認などを行うことができます。
- ロングタッチすると、電話番号のコピーや電話番号を編集して発信などができます(※P.40「通話履歴の利用」)。

4 連絡先に登録している画像

- タッチすると連絡先に登録している内容が表示されます。

5 発信状態アイコン

- 発信:[↗]
- 着信／着信の拒否:[↙]
- 不在着信:[✖]

6 検索欄

- 連絡先を検索できます。
 - ・ [🔍] (音声検索を開始) をタッチすると、音声検索もできます。

7 連絡先を表示

- タッチすると連絡先一覧画面を表示します。

8 発信信日時

9 発信アイコン

- タッチすると発信します。

☎ キーパッド

- ダイヤル画面を表示します。

- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、各履歴に使用したSIMが表示されます。

■ 通話履歴の詳細表示

すべての通話履歴一覧と不在着信の通話履歴一覧を切り替えて確認できます。また、通話履歴をすべて削除できます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話] ▶[ホーム]▶[≡]▶[通話履歴]

2 [すべて]／[不在着信]

- [☎]▶[通話履歴を削除]▶[OK]と操作すると、通話履歴をすべて削除できます。

通話履歴の利用

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話] ▶[ホーム]

2 履歴(相手の名前／電話番号)をロングタッチ

3 項目を選ぶ

- **電話番号をコピー**: 電話番号をコピーします。
- **発信前に電話番号を編集**: ダイヤル画面に電話番号が入力されます。番号を編集して発信などが行えます。
- **ブロックまたは報告**: 設定した電話番号からの着信とメッセージを拒否します。また、迷惑電話として報告することもできます。
 - ・設定した電話番号は[ブロック中の電話番号]で確認できます。詳しくは、「着信拒否の設定」(P.43)をご参照ください。
- **削除**: 履歴を削除します。

電話アシスタント

伝言、通話音声メモなどの再生や設定ができます。自動応答を設定しておくと、電話に出られないときに端末が自動で応答して伝言を預かることができます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話アシスタント]

- ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]▶[ホーム]▶[≡]▶[設定]▶[通話アカウント]▶[電話アシスタント]と操作しても、電話アシスタントを利用できます。

2 [伝言・出る前確認]/[通話録音]

- 録音リスト画面が表示されます。

電話アシスタントの設定

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話アシスタント]

- ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]▶[ホーム]▶[≡]▶[設定]▶[通話アカウント]▶[電話アシスタント]と操作しても、電話アシスタントを利用できます。

2 [設定]

3 項目を選ぶ

- **自動応答**: 着信したときに、応答メッセージで応答をして相手の方の音声を録音する機能について設定します。
- **応答メッセージ選択**: 自動応答の応答メッセージを確認します。
- **自動応答時間**: 自動応答の応答時間について設定します。
- **連絡先のない相手に対する特別な設定**: [迷惑電話の対策]の[電話に出る前確認]に遷移します。
- **通話録音**: 通話中のすべての音声を録音するか設定します。
- **不審な会話のお知らせ**: 通話中に特殊詐欺などが疑われる不審な会話があった場合、音やバイブレーションなどでお知らせするか設定します。
- **ご注意表示**: 連絡先に登録されていない相手から着信したときに、着信中の画面や通話中の画面に注意喚起のメッセージと[>]を表示するか設定します。
- **空き容量確認**: 空き容量や残り録音可能件数を確認できます。
- **プライバシーポリシー**: 利用規約・プライバシーポリシーなどを確認できます。
- **文字起こしの注意事項**: 電話アシスタントの文字起こし機能の注意事項を確認できます。

- 録音した伝言が録音可能件数を超えた場合は、再生済みの古い伝言から順に削除されます。伝言がすべて未再生のときは電話がかかってきても自動応答で応答しません。
- 録音した通話音声メモが録音可能件数を超えた場合は、古い通話音声メモから順に削除されます。
- [電話に出る前確認]を同時に設定している場合、連絡先に登録されていない相手から着信したときは、[電話に出る前確認]の設定を優先します。

通話設定

留守番電話や着信拒否など、通話について設定します。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]
▶[ホーム]

2 [≡]▶[設定]

3 項目を選ぶ

- **発信情報 / 迷惑電話**: 連絡先を登録していない相手の名前や会社名を表示したり、迷惑電話をブロックしたりできます。
- **ダイヤル アシスト**: 渡航先から発信する際、国コードの候補を自動的に追加するか設定します。
- **ブロック中の電話番号**: 設定した電話番号からの着信とメッセージを拒否します。ブロック中の電話番号について詳しくはP.43「着信拒否の設定」
- **通話アカウント**: 通話アカウントについてはP.43「通話アカウント」
- **表示オプション**: 「電話」アプリのモードを設定します。
- **着信時の操作**: かかってきた電話に着信画面で応答するときの操作方法を設定します。
- **クイック返信**: クイック返信に使用する文章を編集します。
- **音とバイブレーション**: 着信時の音やバイブレーションなどについて設定します。
- **留守番電話**: 留守番電話について設定します。
- **連絡先の着信音**: 個々の連絡先にカスタムの着信音を設定します。
- **コーリング カード**: 連絡先から電話がかかってきたときの表示方法をカスタマイズできます。

- **発信者番号の通知**:着信時の発信者の名前と電話番号の読み上げについて設定します。
- **ひせるだけでサイレントモード**:本製品の画面を下にして平らな場所に置くことで、着信通知をオフできるようにするか設定します。

■ 着信拒否の設定

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]▶[ホーム]

2 [≡]▶[設定]▶[ブロック中の電話番号]

3 項目を選ぶ

- **不明な発信者**:不明な発信者からの着信を受けないように設定します。
- **番号を追加**:設定した電話番号からの着信とSMSを拒否します。タッチすると、着信を拒否する番号を登録できます。
 - ・登録済みの電話番号の[✕]▶[ブロックを解除]と操作すると、登録済みの電話番号を解除できます。

■ 通話アカウント

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[電話]▶[ホーム]

2 [≡]▶[設定]▶[通話アカウント]

3 項目を選ぶ

- **発信先**:SIMカード/eSIMの2種類をご使用の場合、発信時に使用するSIMを設定します。
- **電話アシスタント**:伝言、通話音声メモの再生や設定ができます。
- **迷惑電話の対策**:迷惑電話に備えたさまざまな対策の設定ができます。
- **プレフィックス**:プレフィックスの番号と付与動作の設定を行います。

連絡先

連絡先の管理やプロフィールの確認を行うことができます。

連絡先の登録

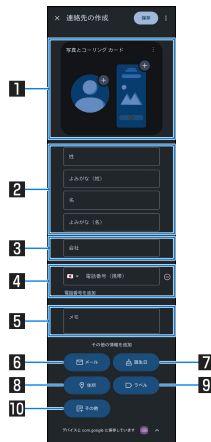
1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[連絡先]▶[連絡先]

2 [+]

- 連絡先についての確認画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。
- アカウントを設定している場合、アカウントに登録されます。

3 各項目を設定

- [] をタッチすると削除できます。



1 画像を追加

- 発着信時や連絡先確認時に表示する画像を登録します。

2 名前

3 会社

4 電話番号

5 メモ

6 メールアドレス

7 重要な日

- 誕生日などの情報を登録できます。

8 住所

9 ラベル

10 項目を追加

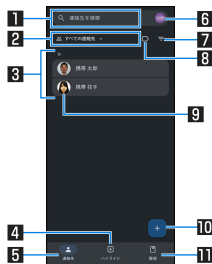
- ミドルネームなどの情報を登録します。

4 [保存]

連絡先の確認／利用

登録した連絡先を呼び出して電話をかけたり、メールを送信したりできます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[連絡先]▶[連絡先]



1 検索欄

- 連絡先を検索できます。

2 アカウント

- 連絡先を表示しているアカウントです。

3 登録されている連絡先

4 ハイライト

- お気に入り追加した連絡先や最近使用したアイテムが表示されます。

5 連絡先

- 登録されている連絡先を表示します。

6 アカウント設定

- 連絡先で利用するアカウントについて設定できます。

7 絞り込み機能

- 電話番号やメールアドレスが登録されている連絡先のみ表示したり、登録されている会社情報から連絡先を絞り込んで表示します。

8 ラベル

- 新しいラベルの追加や登録されているラベルから絞り込んで表示します。

9 画像

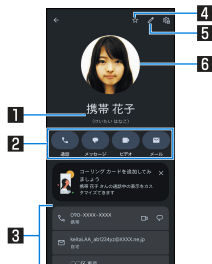
10 新規作成アイコン

11 整理

- 連絡先のインポート／エクスポートや着信拒否の設定、「連絡先」アプリの設定などを行うことができます。
 - ・ 着信拒否の詳細についてはP.43「着信拒否の設定」

2 連絡先を選ぶ

3 登録情報を確認／利用する



1 名前

2 アクションアイコン

- 登録情報に応じた機能を利用できます。

3 登録内容

- 登録内容を確認／利用できます。

4 お気に入りに追加／削除

5 連絡先を編集

6 画像

■ 連絡先の設定

連絡先の削除や共有、ショートカットの作成、着信音の設定などができます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[連絡先]▶[連絡先]

2 連絡先を選ぶ

3 [設定]▶項目を選ぶ

- 以降は画面の指示に従って操作してください。

カメラ／フォト

カメラについて

静止画や動画を撮影できます。撮影したい被写体に合わせてカメラの設定を切り替えることができます。

- カメラの有効画素数については「P.77「主な仕様」

カメラをご利用になる前に

- レンズ部が指紋や油脂などで汚れると、ピントが合わなくなったり、画像がぼやけることがあります。撮影する前に、柔らかい布などで拭いてください。
- カメラは非常に精密度の高い技術で作られていますが、常時明るく見える画素や線、暗く見える画素や線もあります。また、特に光量が少ない場所での撮影では白い線などのノイズが増えますので、ご了承ください。
- カメラのレンズ部に直射日光が長時間当たると、内部のカラーフィルターが変色して映像が変色することがあります。
- 端末を暖かい場所に長時間置いていたあとで撮影または保存したときは、画質が劣化することがあります。
- 太陽やランプなどの強い光源が含まれる撮影環境で被写体を撮影しようとする、画像が暗くなったり画像が乱れたりすることがありますので、ご注意ください。
- 太陽を直接撮影すると、撮像素子の性能を損なうことがありますので、ご注意ください。

- 電池残量が少ないときは、動画を撮影できません。また、動画の撮影中に電池残量が少なくなったときは、自動的に撮影を終了します。カメラを使用する場合は事前に十分な充電を行ってください。
- カメラで撮影した画像は、実際の被写体と色味や明るさが異なる場合があります。
- 撮影時は、カメラのレンズに指や髪などがつかないようにしてください。
- 撮影サイズを大きくすると情報量が多くなるため、端末に表示される画像の動きが遅くなることがあります。
- 室内で撮影するとき、蛍光灯などの影響で画面がちらついたり、すじ状の濃淡が発生したりすることがあります。室内の照明条件や明るさを変更したり、カメラの明るさやホワイトバランスを調整したりすることにより、画面のちらつきや濃淡を軽減できるときがあります。
- カメラの設定や撮影環境によっては、本製品の内部温度が高くなり、撮影が停止する場合があります。
- microSDメモリーカードへ保存中に他のアプリからmicroSDメモリーカードを利用した場合、保存に失敗することがあります。

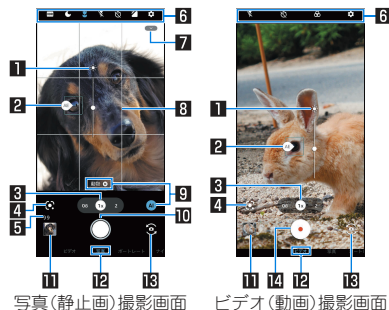
著作権・肖像権について

お客様が端末で撮影または録音したものは、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また、他人の肖像や氏名を無断で使用、改変などすると、肖像権の侵害となる場合がありますので、そのようなご利用もお控えください。撮影したものをインターネットホームページなどで公開する場合も、著作権や肖像権には十分にご注意ください。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。著作権にかかわる画像の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用になれませんので、ご注意ください。お客様が本製品を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律、条例(迷惑防止条例など)に従い処罰されることがあります。カメラ付き端末を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。

■ カメラを使用中の動作について

- 起動中に約3分間何も操作しないと自動的に終了します。
 - [省エネファインダー]がONの場合、撮影画面で一定時間何も操作しないと自動的に待機画面になります。省エネファインダーについては「P.56「静止画撮影／動画撮影の共通設定」」

撮影画面の見かた



1 明るさ調整バー

- 撮影画面をタッチすると一定時間表示されます。調整バーを上下にスライドして、明るさを調整できます。

2 フォーカスマーク

- 被写体をタッチすると一定時間表示され、フォーカスが合っているときは青色で表示されます。
 - [AE]が表示されている場合は、[AE]をドラッグした箇所に合わせて露出を自動で調整できます。
- 被写体をロングタッチすると、フォーカスや露出をロックできます。フォーカスマーク以外をタッチすると、ロックは解除されます。
- 撮影モードによっては、認識した被写体の顔などに合わせて自動で表示されます。

3 ズーム倍率

- 数字をタッチすると、ズーム倍率を切り替えることができます。
- 左右にスワイプすると、ズーム倍率の調整バーが表示されます。調整バーをタッチしたり左右にスライドしたりすると、ズーム倍率を調整できます。
 - ・ 撮影画面をピンチアウト／ピンチインしても、ズーム倍率を調整できます。
- ズーム倍率に合わせて、広角カメラ／標準カメラが自動で切り替わります。

4 Google レンズ

- タッチすると、Google レンズを起動します。詳しくは、初回起動時に表示される内容をご確認ください。

5 撮影可能枚数

- 撮影可能枚数が99枚以下になると表示されます。

6 ツール

- : [オートHDR]のON/OFFを切り替えます。HDR機能の動作中は青色で表示されます。
 - ・ [その他のアイコン表示]で、[オートHDR表示]をONに設定すると表示されます。
- : [オートナイト]のON/OFFを切り替えます。ナイト機能の動作中は青色で表示されます。
- : [オートマクロ]のON/OFFを切り替えます。マクロ機能の動作中は青色で表示されます。
- : フラッシュの点灯設定を変更します。アイコンが設定に合わせて切り替わります。
 - ・ アウトカメラでの撮影時はモバイルライトが、インカメラでの撮影時は画面が、フラッシュとして点灯します。

- : セルフタイマーの時間設定を変更します。アイコンが設定に合わせて切り替わります。
 - ・ [セルフタイマー表示]をONに設定すると表示されます。
- : ガラスへの不要な映り込みを除去する機能の有効／無効を切り替えます。有効の場合は青色で表示されます。
- : 撮影時の色調を切り替えます。[オリジナル]以外の色調に切り替えた場合は青色で表示されます。
- : [料理・テキストの影を消す]のON/OFFを切り替えます。ONの場合は青色で表示されます。
- : [写真サイズ]の設定を切り替えます。アイコンが設定に合わせて切り替わります。
 - ・ [その他のアイコン表示]で、[写真サイズ表示]をONに設定すると表示されます。
- : カメラの設定を表示します (P.54「カメラの設定」)。

7 ツール表示切替

- 隠れているツールがある場合に表示されます。隠れているツールの表示／非表示を切り替えます。

8 ガイド線

- [ガイド線]を設定している場合に表示されます (P.54「静止画撮影の設定」)。

9 被写体認識機能

- アイコンをタッチすると、機能の有効([AI])／無効([X])を切り替えることができます。
- 機能が有効の場合、シーンや被写体の認識結果が表示され、最適な画質やシャッタースピードで撮影します。
 - ・ [(X)]をタッチすると、認識結果を解除できます。
 - ・ 黒板／白板を認識した状態で撮影した場合は、確認画面が表示されます。[補正する]をタッチすると、正面から見たような写真へ補正します。

10 写真(静止画)撮影

- 静止画を撮影します。

11 直前に撮影したデータ

- 直前に撮影したデータのサムネイルを表示します。タッチするとデータの確認などができます。直前に撮影したデータがない場合は、「フォト」アプリのショートカットを表示します。AIライブストーリーで撮影された動画には[📷]が重なって表示されます。

12 撮影モード

- 左右にスライドすると撮影モードを切り替えることができます(モードチェンジャー)。
 - ・ 撮影画面を左右にフリックしても、撮影モードを切り替えることができます。

13 インカメラ／アウトカメラ切替

- 撮影画面を上下にフリックしても、インカメラとアウトカメラを切り替えることができます。

14 ビデオ(動画)撮影開始

- 動画を撮影します。

フォーカスマークについて

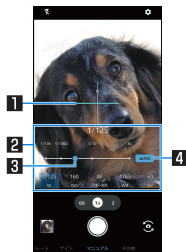
- カメラのフォーカスは、主に被写体の色をもとに対象を検出します。そのため被写体の色が薄かったり、背景の色と似ていたりするときは、正しく検出できないことがあります。

ズーム倍率について

- 撮影モードによっては、使用できるズーム倍率が制限されます。

■ 撮影画面(マニュアル)

操作方法是撮影画面と同様です。ここでは、撮影画面と異なる操作について説明します。



写真(静止画)撮影画面

1 水準器

- 撮影画面の傾きを確認できます。

2 撮影設定表示エリア

- 表示されるシャッター速度やISO感度、ホワイトバランスなどの各設定をタッチすると、設定を手動で調整できます。
 - ・ 利用するカメラによって、表示される設定は異なります。
 - ・ 隠れている設定がある場合は、左右にスライドすると表示する設定を切り替えることができます。

3 調整バー

- 各設定をタッチすると表示され、ドラッグすると設定を手動で調整できます。

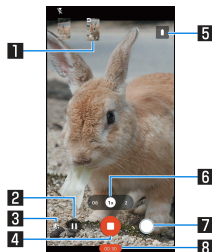
4 自動調整アイコン

- 各設定をタッチすると表示され、調整の[AUTO]／[MANUAL]を切り替えることができます。
 - ・ [MANUAL]に切り替えた設定には、[M]が表示されます。[フォーカス]の場合は、[AF]から[MF]に表示が変わりません。

ISO感度について

- 高感度に設定すると、シャッタースピードが速くなるため、被写体ぶれや手ぶれが軽減されたり、暗い場所にある被写体でも明るく撮影できたりしますが、画質は粗くなります。

■ ビデオ(動画)撮影中画面



1 撮影された静止画

- 動画撮影中に静止画を撮影すると表示されます。
- AIライブシャッターが自動で撮影した場合は、[AI]と表示されます。

2 ビデオ(動画)撮影一時停止

3 ショートムービーの作成確定

- ショートムービーの作成が確定すると表示され、点滅します。

4 ビデオ(動画)撮影停止

5 電池残量

6 ズーム倍率

- 数字をタッチすることで、ズーム倍率を切り替えることができます。
- 左右にスワイプすると、ズーム倍率の調整バーが表示されます。調整バーをタッチしたり左右にスライドしたりすることで、倍率を調整できます。
 - ・ 撮影中画面をピンチアウト/ピンチインしても、ズーム倍率を調整できます。
- ズーム倍率に合わせて、広角カメラ/標準カメラが自動で切り替わります。

7 写真(静止画)撮影

8 撮影時間

■ 撮影モードの切替

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[カメラ]

2 画面下部を左右にスライドして撮影モードを切り替える

- **ビデオ**: 通常の動画を撮影します。撮影設定は自動で調整されます。
- **写真**: 通常の静止画を撮影します。撮影設定は自動で調整されます。
- **ポートレート**: ペットや人物が際立つ静止画を撮影します。アウトカメラを利用中は、[🐾(ペット)]/[👤(人物)]をタッチして、モードを切り替えることができます。背景をぼかした静止画の撮影や、ペットモードでは毛並みをお好みの雰囲気調整を、また人物モードでは被写体の顔の補正をすることもできます。

- **ナイト**:夜景を撮影するのに適した撮影モードです。アウトカメラを利用中は、[★] (星空) / [🎆] (花火) / [🌊] (オーロラ) をタッチして、モードを切り替えることができます。
 - 撮影環境によっては、撮影に数秒かかる場合があります。特に星空モードは撮影に時間がかかるため、三脚などで本製品を固定して撮影することをおすすめします。
- **マニュアル**:静止画を撮影します。撮影設定を手動で調整することができます。
- **タイムラプス**:時間の流れを早回しして、時間を凝縮した動画を撮影します。
 - [🕒] をタッチすると、録画の開始/終了時刻や撮影間隔を設定できます。
- **スロービデオ**:スローモーションの動画を撮影します。
 - 撮影した動画は、「フォト」アプリで確認することができます。
- **vHDRビデオ**:HDR動画のような明暗差を感じることができ、動画を撮影します。
- 表示されていない撮影モードは、[その他]に切り替えると表示されます。

静止画の撮影

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[カメラ]
- 2 画面下部を左右にスライドして撮影モードを[写真]/[マニュアル]に切り替える
- 3 本製品のアウトカメラを被写体に向ける
 - 撮影画面の操作についてはP.48「撮影画面の見かた」
 - [QRコード・バーコード認識]がONの場合は、アウトカメラでQRコード・バーコードを検出できます。
- 4 [○] / [⊕] / [⊖]
 - [○] を下にスライドすると、静止画を連写撮影することができます。
 - 連写撮影した静止画は、[保存先設定]を[SDカード]に設定している場合でも本体メモリに保存されます。
 - 撮影モードを[写真]に設定している場合は、[○]をロングタッチ、または[⊕] / [⊖]を1秒以上押すと動画の撮影を開始し、指を離すと終了します。
 - 動画の撮影中に[●]から[●]までスワイプすると、指を離しても動画の撮影が継続されます。撮影を終了するときは、[●]をタッチしてください。

動画の撮影

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[カメラ]
- 2 画面下部を左右にスライドして撮影モードを[ビデオ]に切り替える
- 3 本製品のアウトカメラを被写体に向ける
 - 撮影画面の操作についてはP.48「撮影画面の見かた」
- 4 [●] / [⏮(+)] / [⏭(-)]
 - [⏮]をタッチすると、動画の撮影を一時停止できます。撮影を再開する場合は[●]をタッチします。
 - [⏭]をタッチすると、静止画の撮影ができます。
- 5 [●] / [⏮(+)] / [⏭(-)]

カメラの設定

- 利用中の撮影モードなどによっては、機能が非表示またはグレースアウトされて利用できない場合があります。

■ 静止画撮影の設定

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[カメラ]
- 2 [⚙]
- 3 [写真]
- 4 項目を選ぶ
 - **写真サイズ**: 静止画の撮影サイズを切り替えます。
 - **セルフイー反転**: インカメラで撮影した静止画を左右反転せずに保存するか設定します。
 - **ウォーターマーク**: 静止画にAQUOSロゴや日時などのウォーターマークを入れるか設定します。
 - **フローティングシャッター**: 撮影画面に位置を変更できるフローティングシャッターボタンを追加するか設定します。
 - フローティングシャッターボタンを[●]までドラッグすると非表示にできます。再表示する場合は、[○]を配置したい位置までドラッグします。
 - フローティングシャッターボタンを下にスライドしても、連写撮影はできません。
 - **オートHDR**: 逆光などコントラストが強いシーンで、白とびや黒つぶれを軽減して撮影するHDR機能を自動で有効にするか設定します。

- **オートナイト**: 暗いシーンを自動的に認識して、静止画を明るく撮影するか設定します。
- **オートマクロ**: 被写体に近づいたときに、自動的にマクロ撮影に切り替えるか設定します。
- **インテリジェントフレーミング**: 静止画撮影時に、撮影した被写体や背景の位置や角度などにより、構図補正を自動的に行います。
 - 補正が必要ない場合は、機能は動作しません。
 - 補正された場合は、補正前と補正後の2枚の静止画を保存します。
- **ガイド線**: 撮影画面にガイド線を表示できます。
- **料理・テキストの影を消す**: 料理やテキストに重なった影を除去するか設定します。
- **マルチフォーカス表示**: 撮影中に複数の小さなフォーカスマークを表示して、フォーカスが合っている箇所を細かく確認できるようにするか設定します。
 - ズーム倍率によってはフォーカスマークは一つになる場合があります。
- **顔・瞳フォーカス**: 人物の顔や瞳を自動的に認識して、フォーカスを合わせる機能について設定します。
- **QRコード・バーコード認識**: QRコード・バーコードを検出し、対応したアプリを起動する通知を表示するか設定します。QRコード・バーコードの検出方法についてはP.53「静止画の撮影」

■ 動画撮影の設定

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[カメラ]
- 2 [🔧]
- 3 [動画]
- 4 項目を選ぶ
 - **動画サイズ**: 動画の撮影サイズを切り替えます。
 - **フレームレート**: フレームレートを切り替えます。
 - **画質とデータ量**: 動画圧縮規格を切り替えます。動画圧縮規格によって画質やデータ量が異なります。
 - **手ブレ補正**: 手ぶれを補正するか設定します。
 - **マイクの利用**: 音声の録音について設定します。
 - **風切り音低減**: 風切り音を低減するか設定します。
 - **顔フォーカス**: 人物の顔を自動的に認識して、フォーカスを合わせる機能について設定します。
 - **AIライブストーリー**: 撮影した長時間の動画から、カット数や変化量を増やし、エフェクトやテーマ曲を付けたショートムービーをAIが自動作成します。
 - ONにしている場合、撮影した動画とは別にショートムービーが保存されます。保存されたショートムービーは「フォト」アプリで確認することができます。
 - **AIライブシャッター**: ONにすると、動画撮影中にAIが人物や動物などを認識したり、構図を判断して、自動で静止画を撮影します。

■ 静止画撮影／動画撮影の共通設定

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[カメラ]

2 [設定]

3 [共通]

4 項目を選ぶ

- **フラッシュ表示**:フラッシュアイコンを撮影画面の上部に表示するか設定します。
- **セルフタイマー表示**:セルフタイマーアイコンを撮影画面の上部に表示するか設定します。
- **その他アイコン表示**: [オートHDR] のON/OFF、[写真サイズ] の設定を切り替えるアイコンを撮影画面の上部に表示するか設定します。
- **位置情報付加**:位置情報を付加するか設定します。
- **保存先設定**:保存先を設定します。
 - microSDメモリカード挿入時は、保存先を変更できます。
- **手のひらで撮影**:カメラに手のひらを向けることで、セルフタイマーによる撮影のカウントダウンを開始できるようにするか設定します。
- **おすすめモードを表示**:認識したシーンや被写体におすすめの撮影設定がある場合、撮影設定の切り替えアイコンを撮影画面に表示するか設定します。
- **すばやく起動**: (電源キー／指紋センサー) を2回押して「カメラ」アプリを起動するか設定します。
- **カメラスタンバイ**:「カメラ」アプリの起動中に画面が消灯した場合、次に画面を点灯したときにロック画面ではなく「カメラ」アプリの画面を表示するか設定します。

- **省エネファINDER**:撮影画面で一定時間何も操作しないと、自動的に待機画面になります。待機画面をタッチすると、再度撮影画面が表示されます。
- **カメラモード保持**:ONにすると、「カメラ」アプリを前回利用していた撮影モードで起動します。OFFのときは、[写真] で起動します。
- **撮影画面の明るさを上げる**:「カメラ」アプリ起動中の画面の明るさをさらに明るくするか設定します。
- **ちらつき防止 (縞模様を軽減)**:有効にすると、蛍光灯などによるちらつきを補正します。テレビやパソコンの画面などを撮影する際に有効な設定です。[OFF] に設定した場合は、被写体ぶれや手ぶれの補正を優先します。
 - [オート] に設定してもちらつきが補正されない場合は、お使いの地域 (東日本:50Hz、西日本:60Hz) に応じて周波数を設定してください。
- **水準器表示**:撮影モードを [マニュアル] に設定している場合に、水準器を表示するか設定します。
- **シャッター音**:シャッター音が鳴らないようにするか設定します。
- **設定リセット**:「カメラ」アプリの設定をリセットします。

フォト

静止画や動画を表示・編集したり、管理することができます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[フォト]

2 データを選ぶ

- データをゴミ箱に移動: データをロングタッチ▶[ゴミ箱]▶[ゴミ箱に移動]

3 データを確認する

- 「フォト」アプリはPlay ストアより更新することができ、最新バージョンでは操作方法が変わることがあります。更新された場合は、フォト画面で画面右上のアカウントアイコンをタッチ▶[ヘルプとフィードバック]と操作し、内容をご確認ください。
- 不要な静止画や動画はゴミ箱に移動しても、本製品からは削除されていません。ゴミ箱を空にするか、またはゴミ箱に移動してから一定期間後に本製品から削除されます。

データの複数選択について

- データ一覧画面でデータをロングタッチするとデータ選択画面に切り替わります。他のデータをタッチして複数のデータを選択することができます。

■ ゴミ箱を空にする

1 フォト画面で[コレクション]▶[ゴミ箱]

2 [⋮]▶[ゴミ箱を空にする]▶[完全に削除]

本体設定

設定メニュー

ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]と操作して表示されるメニューから、本製品の各種設定を行うことができます。

- 本体設定を表示中に「設定を検索」欄をタッチ▶検索するキーワードを入力すると、設定項目を検索できます。
- 使用状況などにより、表示される項目や配置が異なる場合があります。

電話番号	SIMに登録されている電話番号を確認できます。
Google	Googleの各種サービスの設定をまとめて行うことができます。
ネットワークとインターネット	Wi-Fi機能やモバイルネットワークなどのネットワークについて設定します。
接続設定	Bluetooth機能やおサイフケータイなどについて設定します。
音とバイブレーション	メディアの再生音や通話、通知などの音やバイブレータの動作について設定します。
ディスプレイ	画面表示などについて設定します。
壁紙とカスタマイズ	壁紙や色調、フォントなどロック画面、ホーム画面の表示について設定します。
ホーム切替	利用するホームアプリを切り替えます。
モード	就寝中、仕事中、運転中などの特定の状況に応じた、通知の動作や画面の表示を設定します。
通知	通知について設定します。

アプリ	アプリについて設定します。
AQUOSトリック	本製品に搭載されている便利な機能の設定を行います。
ストレージ	本体メモリやmicroSDメモリーカード、USBメモリの使用容量／合計容量の確認、保存されているデータの表示などができます。
バッテリー	電池の利用状況の確認や設定、長エネスイッチの起動などを行います。
システム	言語や日時、端末の操作など、システムにかかわる設定をします。
デバイス情報	デバイス情報の確認ができます。
セキュリティとプライバシー	画面ロックやアプリに許可する権限などセキュリティとプライバシーについて設定します。
位置情報	位置情報の測位について設定します。
パスワードとアカウント	アカウントの追加や設定、データの同期、アカウントに保存したパスワードなどについて設定します。
Digital Wellbeing、保護者による使用制限	本製品の利用習慣を一目で確認し、オフラインで過ごす時間を作ります。また、本製品の使用制限について設定します。
安全性と緊急情報	緊急情報や緊急 SOS、緊急速報メールなどについて設定します。
ユーザー補助	ユーザー補助オプションについて設定します。
お困りのときは	「よくあるご質問」の確認や設定項目の検索など、お困りのときに利用できる機能がまとめられています。

音とバイブレーション

メディアの再生音や通話、通知などの音やバイブレータの動作について設定します。

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]
▶[音とバイブレーション]

Vocalist

通話中の周囲の雑音を抑える設定をします。

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]
▶[音とバイブレーション]▶[Vocalist]

2 項目を選ぶ

- **自分の声だけ届ける**:自分の声を登録します。声を登録すると、通話中の画面に機能の有効([) / 無効([- **周囲のノイズを抑える**:周囲の雑音を抑えて、自分の声や相手の方の声を聞き取りやすくするか設定します。
- **使い方ガイド**:シャープのサイトに接続し、Vocalistの詳しい使いかたや注意事項を確認できます。

[自分の声だけ届ける]について

- 外部接続機器を利用した通話では効果が適用されません。
- 登録したときと異なる話しかたをすると、十分な効果が得られない場合があります。

- 自分の声を登録するときは、反響音が少なく静かな環境で行ってください。
- この機能は通話を終了すると自動的に無効に切り替わります。

[周囲のノイズを抑える]について

- 外部接続機器を利用した通話では効果が適用されない場合があります。
- 発信中や保留中の音などの聞こえかたが変わる場合があります。

AQUOSトリック

本製品に搭載されている便利な機能の設定を行います。

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]
▶[AQUOSトリック]

ジュニアモード

お子さまが使用するとき便利な機能がまとめられています。

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]
▶[AQUOSトリック]▶[ジュニアモード]

2 項目を選ぶ

- **明るい背景色に変更**: 画面の背景色を白基調にするか設定します。
- **ジュニアホーム**: 利用するホームアプリを「AQUOSジュニアホーム」に切り替えます。「AQUOSジュニアホーム」についてはP.29「ホーム切替」
- **リラックスビュー**: 目に優しい画質の利用について設定します。
- **防犯アラート**: 防犯アラートについてはP.60「防犯アラート」
- **緊急SOS**: (電源キー/指紋センサー)をすばやく5回以上押すことで、設定した緊急通報先に自動で発信する緊急SOS機能について設定します。
- **ファミリーリンク**: お子さまの利用状況の把握や利用制限について設定します。

■ 防犯アラート

緊急時に防犯アラートを発動すると、大音量でアラート音を鳴動して周りに知らせるとともに、保護者へ電話やSMSで自動連絡します。「振ってアラート発動する」を利用すると、画面を操作することなく端末を振るだけで防犯アラートを発動することもできます。

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]
▶[AQUOSトリック]▶[ジュニアモード]▶[防犯アラート]

2 [次へ]▶[次へ]

3 [緊急時の連絡]をONにする▶[許可]

4 電話番号入力▶候補選択▶[次へ]

5 [お試し確認をする]

- 緊急時の連絡先を1件設定してセットアップが完了すると、「振ってアラート発動する」はONになります。お試し確認を行ってご利用の状況に応じた感度調整や振る動作をしっかりと確認してご利用ください。
 - ・ お試し確認や感度の調整についてはP.62「防犯アラートの設定」

6 防犯アラート設定の画面で[試してみる]

- [試してみる]の画面を表示している状態では、振って発動する練習ができます。練習モードでは、緊急連絡先への電話やSMS送信は行いません。
- 緊急時に振って発動することをイメージして試してください。日常的な動作では発動しないこともあわせてご確認ください。

- 思ったように反応しない、または反応しすぎる場合は感度の調整をして再度お試しください。

「振ってアラート発動する」ご利用時のご注意

- 本製品が特定振動を検知することによりアラートが発動します。利用状況によっては、特定の振動を本製品が検知して緊急時以外でも防犯アラートが発動することがありますので、あらかじめご了承ください。緊急時以外に防犯アラートが頻繁に発動する場合は、[感度の調整]を「低」に設定するか、「振ってアラート発動する」をOFFにして、画面操作での防犯アラート機能をご利用ください。
 - 画面操作での防犯アラート機能利用についてはP.61「画面操作でアラートを発動する」
- 本製品をかばんなどに入れた場合、かばんの形や入れる場所によって発動しにくいときがあります。[試してみる]で、あらかじめ発動することを十分に確認してください。画面操作での防犯アラート機能をあわせてご確認いただくことをおすすめします。
- ご利用されるご本人が、普段お使いになる状況に応じて、日頃から[試してみる]で練習してご利用ください。

端末を振ってアラートを発動する

手に持ったりバックに入れた状態で5秒程度強めに振ってください。

- かばんに入れる場合は、なるべく端末が動かない場所に入れると効果的に発動します。
- 本製品をかばんなどに入れた場合、かばんの形や入れる場所によって発動しにくいときがあります。[試してみる]で、あらかじめ発動することを十分に確認してください。画面操作での防犯アラート機能をあわせてご確認いただくことをおすすめします。
- 発動後カウントダウンが開始し、5秒後アラートが発動します。[キャンセル]をタッチすることで止めることもできます。

画面操作でアラートを発動する

- 1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[AQUOSトリック]▶[ジュニアモード]▶[防犯アラート]
- 2 [アラートを鳴らす()]
- 3 [アラートを鳴らす()]
 - ホーム画面にウィジェットを貼り付けしておくことで容易にアラートを発動することもできます(P.62「防犯アラートの設定」)。

アラートを停止する

1 アラート鳴動中画面で[アラートをやめる]

防犯アラートの動作について

- 防犯アラートが発動すると、アラート音の鳴動とともに自動で通話の発信と位置情報のSMS送信をします。
 - 通話の発信: 緊急連絡先 1 に設定した連絡先から順番に通話を発信し、電話がつながるまで繰り返し自動で発信します。
 - 位置情報のSMS送信: 緊急連絡先であるメッセージと位置情報をSMSで送信します。受信される方はSMSの受信設定を確認しておいてください。
 - ・ メッセージ送信先設定については P.62「防犯アラートの設定」
- マナーモードなどの設定によらず、常に最大音量で鳴動します。

防犯アラートの設定

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[AQUOSトリック]▶[ジュニアモード]▶[防犯アラート]

2 [防犯アラートの設定]

3 項目を選ぶ

- **振ってアラート発動する**: 「振ってアラート発動する」の ON/OFF を切り替えます。
- **感度の調整**: 「振ってアラート発動する」の感度を設定します。

- **試してみる**: 「振ってアラート発動する」をお試しいただけます。
- **アラート音**: 防犯アラートのアラート音を設定します。
- **メッセージ送信先設定**: 緊急連絡先 1 以外にも緊急連絡であるメッセージをSMSで送信するか設定します。
- **ホームに貼りつけ**: 防犯アラートのウィジェットをホーム画面に配置します。

その他の設定／機能

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[AQUOSトリック]▶[ジュニアモード]▶[防犯アラート]

2 項目を選ぶ

- **緊急時の連絡先設定**: 防犯アラート、位置情報の送信で使う緊急連絡先を設定します。
 - ・ 連絡先は3件まで設定できます。
- **防犯アラートの設定**: 防犯アラートの設定については P.62「防犯アラートの設定」
- **居場所お知らせ送信**: 緊急連絡先 1 に位置情報を送ります。
 - ・ 場所の共有をしたいときに画面操作で位置情報のメッセージを緊急連絡先 1 にSMSで送信することができます。また、電池残量が少なくなるときや電源OFFにしたときに位置情報を自動的に送信するか設定できます。
- **使い方ガイド**: 防犯アラートの詳しい使いかたや注意事項を確認できます。

使用上のご注意

- 位置情報を送信するためには、[位置情報を使用]をONにする必要があります。[位置情報を使用]がOFFのときは、位置情報の送信ができません。
ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[位置情報]で「位置情報を使用」がONになっていることを確認ください。
- SIMカードとeSIMを同時に利用している場合、あらかじめ通話の発信やSMSの送信に使用するSIMをご確認ください。通話の発信に利用するSIMを[毎回確認]に設定にしている場合は、自動で通話の発信を行いません。
- 国際ローミング中は、防犯アラートの発動時に自動で通話の発信やSMSの送信を行いません。
- 電源を切ったときに自動で位置情報を送信する機能をONにしている場合、位置情報の取得に時間がかかるときは、電源が切れたことのみSMSで送信します。あらかじめご了承ください。

デバイス情報

デバイス情報の確認ができます。

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]

2 項目を選ぶ

- **デバイス名**: デバイス名を変更できます。
- **電話番号(SIM スロット 1)** / **電話番号(SIMスロット 2)**: 電話番号を確認できます。
- **法的情報**: 著作権情報や利用規約などを確認できます。
- **規制ラベル**: 技術基準適合証明書などの情報を確認できます。
- **電池の状態**: 電池の状態を確認できます。
- **SIM ステータス(SIM スロット 1)** / **SIM ステータス(SIM スロット 2)**: SIMの情報を確認できます。
- **モデル**: モデル名やシリアル番号などを確認できます。
- **EID**: EID(eSIMの識別番号)を確認できます。
 - eSIMをご使用の場合は、[EID(SIM スロット 2)]と表示されます。
- **IMEI(SIM スロット 1)(メイン)** / **IMEI(SIM スロット 2)**: IMEI情報(端末識別番号)を確認できます。
- **Android バージョン**: Android バージョンなどを確認できます。
- **AQUOS UX バージョン**: AQUOS UXのバージョンを確認できます。
- **製品情報**: 製品情報を確認できます。
- **IP アドレス**: IPアドレスを確認できます。
- **Wi-Fi MAC アドレス**: Wi-Fi MACアドレスを確認できます。

- **デバイスの Wi-Fi MAC アドレス**: デバイスの Wi-Fi MAC アドレスを確認できます。
- **Bluetooth アドレス**: Bluetooth アドレスを確認できます。
- **稼働時間**: 端末の稼働時間を確認できます。
- **ビルド番号**: ビルド番号を確認できます。

お困りのときは

「よくあるご質問」の確認や設定項目の検索など、お困りのときに利用できる機能がまとめられています。

1 ホーム画面 ▶ 「アプリ一覧画面」を表示 ▶ [設定] ▶ [お困りのときは]

2 項目を選ぶ

- **よくあるご質問**: シャープのサイトに接続し、「よくあるご質問」を確認できます。
- **設定項目を検索**: 検索入力欄にキーワードを入力すると、設定項目を検索できます。
- **使いこなすガイド**: シャープのサイトに接続し、本製品を使いこなすための各種情報やコンテンツを確認できます。
- **セルフチェック**: 症状や機能を選択して、端末の診断を行います。セルフチェックの詳細については P.64「セルフチェック」
- **電源メニュー**: 電源メニューを表示します。

■ セルフチェック

1 ホーム画面 ▶ 「アプリ一覧画面」を表示 ▶ [設定] ▶ [お困りのときは] ▶ [セルフチェック]

- セーフモードで再起動: [⋮] ▶ [セーフモードで再起動] ▶ [OK]

2 [診断する]

3 [お困りごとで選ぶ] / [診断箇所を選ぶ]

- [ストレージを確保する] をタッチすると、アプリが一時的に使用しているキャッシュを削除して、空き容量を確保します。
- [よくあるご質問] をタッチすると、シャープのサイトに接続し、「よくあるご質問」を確認できます。

4 項目を選ぶ

- [診断箇所を選ぶ] の場合は、複数の項目を選択できます。項目を選び終わったら、[OK] をタッチしてください。
 - ・ [✔] / [✖] をタッチすると、すべての項目を選択 / 選択解除できます。
 - ・ 項目の [?] をタッチすると、診断についてのヘルプを確認できます。

5 [診断開始] ▶ [開始]

- 診断の中止: [スキップ] ▶ [診断中止]

6 [診断終了]

- 診断履歴をタッチすると、結果を確認することができます。

データ通信

Bluetooth®機能

端末とBluetooth機器をワイヤレスで接続できます。

- すべてのBluetooth機器とのワイヤレス通信を保証するものではありません。
- Bluetooth機器の取扱説明書もご覧ください。
- SCMS-T非対応のBluetooth機器では、音声出力できない場合があります。

Bluetooth機器取り扱い上のご注意

Bluetooth機器を利用するときは、次の事項にご注意ください。

- 良好な接続を行うために、次の点にご注意ください。
 - 端末と他のBluetooth機器とは、見通し距離約10m以内で接続してください。間に障害物がある場合や、周囲の環境（壁、家具など）、建物の構造によっては接続可能距離が短くなります。特に鉄筋コンクリートの建物の場合、上下の階や左右の部屋など鉄筋の入った壁を挟んで設置したときは、接続できないことがあります。上記接続距離を保証するものではありませんので、ご了承ください。
 - 電気製品、AV機器、OA機器などからなるべく離して接続してください。電子レンジ使用時は影響を受けやすいため、できるだけ離れてください。近づいていると、他の機器の電源が入っているときは、正常に接続できなかったり、テレビやラジオの雑音や受信障害の原因になったりすることがあります。
 - 放送局や無線機などが近くにあり正常に接続できないときは、接続相手のBluetooth機器の使用場所を変えてください。周囲の電波が強すぎると、正常に接続できないことがあります。
 - Bluetooth機器をかばんやポケットに入れたままでもワイヤレス接続できます。ただし、Bluetooth機器と端末の間に身体を挟むと、通信速度の低下や雑音の原因になることがあります。

- Bluetooth機器が発信する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では端末の電源および周囲のBluetooth機器の電源を切ってください。

- 電車内
- 航空機内
- 病院内
- 自動ドアや火災報知機から近い場所
- ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所

Wi-Fi対応機器との電波干渉について

- Bluetooth機器と無線LAN(IEEE802.11b/g/n/ax)は同一周波数帯(2.4GHz)を使用するため、無線LANを搭載した機器の近くで使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下や雑音、接続不能の原因になることがあります。この場合、無線LANの電源を切るか、端末や接続相手のBluetooth機器を無線LANから約10m以上離してください。

NFC通信

NFCとはNear Field Communicationの略で、ISO(国際標準化機構)で規定された国際標準の近接型無線通信方式です。

FeliCaおよびNFCリーダー／ライター機能が本製品でご利用いただけます。

トラブルシューティング(FAQ)

故障かな？と思ったら

- システムをアップデートする必要があるかをチェックして、必要な場合にはシステムをアップデートしてください(☞P.74「システム アップデート」)。
- 端末のセルフチェックを行ってください(☞P.64「セルフチェック」)。
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、裏表紙のお問い合わせ先にご相談ください。

■ 電源

症状	チェック項目
本製品の電源が入らない	● 電池切れになっていませんか。(☞P.20「充電」)
画面が動かない、電源が切れない	●  (電源キー/指紋センサー) +  (+) を8秒以上押すと、強制的に電源を切ることができます。 ● バイプレータが動作したあとに指を離すと、電源が切れます。 ● 強制的に電源を切るため、データや設定した内容などが消えてしまう場合がありますのでご注意ください。

■ 充電

症状	チェック項目
充電ができない	- ACアダプター(別売)の電源プラグがコンセントに正しく差し込まれていますか。 - ACアダプターと本製品が正しくセットされていますか。【※P.20「ACアダプターで充電」】 - ACアダプターをご使用の場合、ACアダプターのType-Cプラグと本製品がしっかりと接続されていますか。【※P.20「ACアダプターで充電」】 - パソコンとUSB Type-Cケーブル(市販品)をご使用の場合、パソコンの電源が入っていますか。 - 充電しながら通話や通信、その他機能の操作を長時間行くと、本製品の温度が上昇して充電が停止することがあります。その場合は、本製品の温度が下がってから再度充電を行ってください。【※P.20「充電時のご注意」】 - インテリジェントチャージの[制限容量まで充電]や[画面消灯中のみ充電]をONに設定していませんか。

■ 端末操作

症状	チェック項目
操作中・充電中に熱くなる	操作中や充電中、また、充電しながら動画視聴などを長時間行った場合などには、本製品や内蔵電池、充電用機器が温かくなることがありますが、動作上問題ありませんので、そのままご使用ください。【※P.20「充電時のご注意」】
電池の使用時間が短い	- 圏外状態で長時間放置されるようなことはありませんか。圏外時は通信可能な状態にできるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。圏外が続く場所では電源を切るか、機内モードを設定してください。【※P.21「電源を切る」】 - 内蔵電池の使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。【※P.77「主な仕様」】 - 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。十分に充電してもお買い上げ時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。 - 使用していないアプリは終了してください。 - 使用していない無線機能はOFFにしてください。 - 長エネスイッチを利用すると、電池の消費を抑えることができます。

症状	チェック項目
タッチしたり、キーを押したりしても動作しない	端末の電源が切れていませんか。 ☞ P.21「電源を入れる」
タッチしたり、キーを押したりしたときの画面の反応が遅い	本製品に大量のデータが保存されているときや、本製品とmicroSDメモ리카ードの間で容量の大きいデータをやりとりしているときなどに起きる場合があります。
SIMカードが認識しない	SIMカードを正しい向きで挿入していますか。☞ P.15「SIMについて」
時計がずれる	長い間電源を入れた状態にしていると時計がずれる場合があります。[日時の自動設定]がONになっているかを確認し、電波の良い場所で電源を入れ直してください。
端末動作が不安定	お買い上げ後に端末へインストールしたアプリによる可能性があります。セーフモード※で起動して症状が改善される場合には、インストールしたアプリをアンインストールすることで症状が改善される場合があります。
アプリが正しく動作しない(起動できない、エラーが頻繁に起こるなど)	- 無効化されているアプリはありませんか。無効化されているアプリを有効にしてから再度お試しください。 - アプリの動作に必要な権限を設定していますか。 [自動調整バッテリー]を設定していませんか。

※セーフモードとはお買い上げ時に近い状態で起動させる機能です。

• セーフモードの起動方法

電源が切れている状態から電源を入れ直し、起動中の画面でロック画面が表示されるまで $\square$ (—)を押し続けてください。

※電源を入れた状態で $\square$ (電源キー／指紋センサー) + $\square$ (+)

▶[電源を切る]／[再起動]をロングタッチ▶[OK]と操作しても、セーフモードで再起動ができます。

また、セルフチェックからも、セーフモードで再起動ができます。☞ P.64「セルフチェック」

※セーフモードが起動すると画面左下に[セーフモード]と表示されます。

※セーフモードを終了するには、電源を入れ直してください。

• 必要なデータを事前にバックアップした上でセーフモードをご利用ください。

• ウィジェットによっては消去される場合があります。

• セーフモードは通常の起動状態ではないため、通常ご利用になる場合には、セーフモードを終了しご利用ください。

■ 通話

症状	チェック項目
発信ができない 着信音が鳴らない	- 機内モードを設定していませんか。 - 着信音と通知の音量を最小に設定していませんか。 - 機内モード、マナーモードを設定していませんか。 - 着信拒否を設定していませんか。 P.43「着信拒否の設定」
通話ができない (場所を移動しても[電波]の表示が消えない、電波の状態は悪くないのに発信または着信ができない)	- SIMカードを入れ直すか、電源を入れ直してください。P.15「SIMについて」、P.21「電源を入れる／切る」 - eSIMのご利用には設定が必要です。eSIMの設定についてはP.17「eSIMのSIM情報を設定する」 - 電波の性質により、「圏外ではない」「電波状態は[電波]を表示している」状態でも発信や着信ができない場合があります。場所を移動してかけ直してください。 - 着信拒否など着信制限を設定していませんか。P.43「着信拒否の設定」 - 電波の混み具合により、多くの人が集まる場所では電話やメールが混み合い、つながりにくい場合があります。その場合は話中音が流れます。場所を移動するか、時間をずらしてかけ直してください。

■ 画面

症状	チェック項目
ディスプレイが暗い	- 画面が消灯するまでの時間を短く設定していませんか。 - 画面の明るさを変更していませんか。 [明るさの自動調節]をONに設定していませんか。ONにしている場合は、周囲の明るさによって変わります。 [長エネスイッチの使用]をONに設定していませんか。

■ 音声

症状	チェック項目
通話中、相手の声が聞こえにくい、相手の声が大きすぎる	通話音量を変更していませんか。 P.39「通話音量調節」

■ メール

症状	チェック項目
メールを自動で受信しない	Gmailが自動的に同期しないように設定していませんか。

■ カメラ

症状	チェック項目
カメラで撮影した静止画や動画がぼやける	カメラのレンズにくもりや汚れが付着していないかを確認してください。P.47「カメラをご利用になる前に」
モバイルライト点灯時に撮影した静止画や動画が白っぽくなる	カメラのレンズ周辺にケースやカバー、指などがあると、モバイルライトの光が反射して撮影した静止画や動画に悪影響を与え場合があります。

■ おサイフケータイ

症状	チェック項目
おサイフケータイが使えない	[画面ロック中はロック]を設定していませんか。 - 本製品のNFC／おサイフケータイがざし位置を読み取り機にかざしていますか。NFC／おサイフケータイがざし位置は付属のクイックスタートをご確認ください。

■ 海外利用

症状	チェック項目
海外で本製品が使えない([)が表示されている場合)	- eSIMの提供元、SIMカードの販売元までお問い合わせください。 [優先ネットワークの種類]を変更してみてください。 [ネットワークを自動的に選択]をONにしてください。 - 本製品の電源を入れ直すことで回復することがあります。P.21「電源を入れる／切る」
海外でデータ通信ができない	[ローミング]をONにしてください。 - ご利用の通信事業者がサービスを提供しているかご確認ください。
相手の電話番号が通知されない／相手の電話番号とは違う番号が通知される／連絡先の登録内容や発信者番号通知を利用する機能が動作しない	相手が発信者番号を通知して電話をかけてきても、利用しているネットワークや通信事業者から発信者番号が通知されない場合は、本製品に発信者番号は表示されません。また、利用しているネットワークや通信事業者によっては、相手の電話番号とは違う番号が通知される場合があります。

■ データ管理

症状	チェック項目
データ転送が行われない	- USB HUBや変換プラグを使用していませんか。USB HUBや変換プラグを使用すると、正常に動作しない場合があります。 「USB の接続用途」を正しく設定していますか。
microSDメモリカードに保存したデータが表示されない	microSDメモリカードを取り付け直してください。P.17「microSDメモリカード」
画像が正しく表示されない	画像データが壊れている場合は黒色の画面が表示されるなどして、画像が正しく表示されません。

■ Bluetooth機能

症状	チェック項目
Bluetooth通信対応機器と接続ができない／検索しても見つからない	Bluetooth通信対応機器(市販品)側を機器登録待ち受け状態にしてから、本製品側から機器登録を行う必要があります。登録済みの機器を削除して再度機器登録を行う場合には、Bluetooth通信対応機器(市販品)、本製品双方で登録した機器を削除してから機器登録を行ってください。
カーナビやハンズフリー機器などの外部機器を接続した状態で本製品から発信できない	相手が電話に出ない、圏外などの状態で複数回発信すると、その番号へ発信できなくなる場合があります。その場合は、本製品の電源を一度切ってから、再度電源を入れ直してください。P.21「電源を入れる／切る」

エラーメッセージ

エラーメッセージ	説明／対処方法
通信サービスはありません	- SIMカードが正しく差し込まれているかご確認ください。P.15「SIMについて」 - eSIMのご利用には設定が必要です。eSIMの設定についてはP.17「eSIMのSIM情報を設定する」
xx通を受信しましたが全てのメールを受信できませんでした	何らかの原因ですべてのメールを受信できなかった場合に表示されます。
空き容量わずか	本体メモリの空き容量が低下しています。一部の機能やアプリが正常に動作しなくなる場合があります。不要なアプリのアンインストールやファイルの移動／削除を行ってください。

エラーメッセージ	説明／対処方法
応答が無いため接続が中断されました	メールやSMSを利用するとき、回線設備が故障、または回線が非常に混み合っている場合に表示されます。しばらくたってから送信し直してください。
サーバーエラー 送信できませんでした	
接続エラー 送信できませんでした	
送信先サーバーが対応していません	
通信エラー しばらくたってから送り直してください	- 音声回線ネットワークが非常に混み合っていますので、しばらくたってからかけ直してください。 - パケット通信ネットワークが非常に混み合っていますので、しばらくたってから、再度操作してください。
しばらくお待ちください(音声サービス)	
しばらくお待ちください(データサービス)	

エラーメッセージ	説明／対処方法
指紋を認識できません	指紋の読み取りに失敗した場合に表示されます。
センサーにしっかりと押し当ててください	
毎回、指を置く位置を少し変えてください	
モバイルネットワークが利用できません。	有効な優先ネットワークタイプに設定されているかご確認ください。

システム アップデート

本製品のシステム アップデートが必要なかをネットワークに接続して確認し、必要に応じてアップデートファイルをダウンロードして、システムをアップデートする機能です。

- システム アップデートが必要な場合は、端末上あるいはシャープ株式会社のホームページにてご案内いたします。
- システム アップデートは、本製品に登録した連絡先、カメラ画像、メール、ダウンロードデータなどのデータを残したまま行えますが、お客様の端末の状態(故障、破損、水濡れなど)によってはデータの保護ができない場合があります。必要なデータはバックアップを取っていただくことをおすすめします。ただし、ダウンロードデータなどバックアップが取れないデータがありますので、あらかじめご了承ください。
- システム アップデートには大量のパケット通信が発生することがあります。Wi-Fi通信を利用できる場合は、Wi-Fi通信を利用してアップデートすることをおすすめします。

ご利用にあたって

- システム アップデートに必要な電池残量がないときはシステムをアップデートできません。システム アップデートを行う際は、電池をフル充電しておいてください。アップデート時は充電しながら操作することをおすすめします。
- システム アップデート（ダウンロード、書き換え）には時間がかかる場合があります。
- システム アップデート中は、電話の発信、着信、各種通信機能、およびその他の機能を利用できません。ただし、ダウンロード中は電話の着信は可能です。
- システム アップデートは電波状態の良いところで、移動せずに実行することをおすすめします。電波状態が悪い場合には、システム アップデートを中断することがあります。
- システム アップデート中に送信されてきたSMSは、SMSセンサーに保管されます。
- システム アップデートの際、お客様の本製品固有の情報（機種や製造番号など）が、当社のシステム アップデート用サーバーに送信されます。当社は送信された情報を、システム アップデート以外の目的には利用いたしません。
- システム アップデートに失敗すると、本製品が使用できなくなる場合があります。本製品が使用できなくなった場合は、裏表紙のお問い合わせ先までお問い合わせください。
- PINコードが設定されているときは、書き換え処理後の再起動の途中で、PINコード入力画面が表示され、PINコードを入力する必要があります。

システムのアップデート

1 ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[システム]▶[システム アップデート]

- システム アップデートが必要な場合は、システム アップデート用データをダウンロードすることができます。以降は画面の指示に従って操作してください。
 - ステータスバーに[>]が表示されている場合は、ステータスパネルからシステム アップデートを利用することができます。
- システム アップデートの必要がないときには、[お使いのシステムは最新の状態です]と表示されます。
 - アップデート中は、すべてのキー操作が無効となります。アップデートを中止することもできません。
 - システム アップデートに失敗したときや中止されたときは、システム アップデートを実行し直してください。

アフターサービス／保証について

修理を依頼されるときは

修理については、付属のクイックスタートに記載の「アフターサービスについて」／「保証について」をご確認ください。

- メモリの内容などは、修理する際に消えてしまうことがありますので、控えておいてください。なお、メモリの内容などが変化・消失した場合の損害および逸失利益に関して、当社では一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。
- 本製品を加工、改造、解析（ソフトウェアの改造、解析（ルート化などを含む）、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルを含む）されたもの、または当社などが指定する正規の修理拠点以外で修理されたものは保証対象外または修理をお断りする場合があります。
- 本体内蔵の電池は消耗品のため、保証対象外となります。
- 本製品の本体以外の付属品や試供品は無償修理保証の対象外です。

■ 補修用性能部品について

当社は本製品本体およびその周辺機器の補修用性能部品を、製造終了後4年間保有しております。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

保証期間中

当社無償修理規定に基づき、修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理により使用できる場合はお客さまのご要望により、有償修理いたします。

※ 保証期間は、本製品をお客様が新規ご購入された日より1年間です。

主な仕様

■ 本体

サイズ		高さ:約149mm、幅:約73mm、厚さ:約8.9mm
重量		約166g
ディスプレイ	サイズ	約6.1インチ
	種類	Pro IGZO OLED
	解像度	Full HD+(1080×2340)
OS		Android 16
内蔵メモリ※1		RAM 6GB/ROM 128GB RAM 8GB/ROM 256GB
バッテリー容量	バッテリー容量	5000mAh
連続待受時間 (静止時)※2	4G(LTE)	RAM 6GB/ROM 128GB モデル:約1050時間 RAM 8GB/ROM 256GB モデル:約940時間
連続通話時間※2	VoLTE	約3230分
充電時間		ACアダプター(SH-AC05) (別売):約120分
無線LAN	対応規格	IEEE802.11a/b/g/n/ac/ax 準拠(IEEE802.11n対応周波数帯:2.4GHz/5GHz、 IEEE802.11ax対応周波数帯:2.4GHz/5GHz/6GHz)

カメラ	有効画素数	標準カメラ:約5030万画素 広角カメラ:約5030万画素 インカメラ:約3200万画素
-----	-------	--

- ※1 メモリ容量は、撮影した動画や静止画、ダウンロードしたアプリやデータなどの保存にすべての容量を使用することはできません。
- ※2 連続通話時間は、電波を正常に送受信できる状態で使用できる時間の目安であり、連続待受時間は、電波を正常に送受信できる静止状態での目安です。
データ通信などによって、通話(通信)・待受時間は、短くなります。電池の充電状態や使用環境、利用場所の電波状態などにより、通話(通信)・待受時間が半分程度になる場合があります。

■ クイックスイッチアダプター(試供品)

サイズ	高さ:約32mm、幅:約15mm、厚さ:約7.2mm
重量	約4.6g

携帯電話機の電波防護への適合性について

※本項目における【SH-M33】とは、本製品【AQUOS sense 10】を示しています。

この機種SH-M33の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。

この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準（※1）を遵守するよう設計されています。この技術基準は、世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）や米国電気電子学会（IEEE）電磁界安全に係る国際委員会（ICES）が定める電波防護許容値との整合性を考慮しつつ国が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準は電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR: Specific Absorption Rate、6 GHz以下の周波数の場合）および電力密度（PD: Power Density、6 GHzを超える周波数の場合）で定めており、携帯電話機に対するSAR、PDの許容値はそれぞれ2 W/kg、2 mW/cm²です。また、それぞれの指標で評価すべき無線機能が同時に動作する場合には、総合照射比で示すことを規定しています。総合照射比が1以下であれば、許容値を満足しています。

この携帯電話機の総合照射比は、側頭部における最大値: 0.734（※2）、身体に装着した場合の最大値: 0.292（※3）となっています（※4）。携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話等を行っている状態では、通常SAR、PDはより小さい値となります。個々の製品によってこれらの数値に多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用するなどして、身体から1.5cm以上離し、かつその間に金属（部分）が含まれないようにしてください。このことにより、本携帯電話機が国の技術基準に適合していることを確認しています。

世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。」と表明しています。

携帯電話機の電波防護について、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<https://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>

一般社団法人電波産業会のホームページ

<https://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html>

シャープ株式会社のホームページ

<https://k-tai.sharp.co.jp/support/sar/>

- ※1 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）で規定されています。
- ※2 <携帯電話サービス>と同時に使用可能な無線機能を含みます。
- ※3 <携帯電話サービス>と同時に使用可能な無線機能を含みます。
- ※4 この携帯電話機の総合照射比を算出するために使用した値は、側頭部: SAR 0.917 W/kg、PD（吸収電力密度）0.550 mW/cm²、身体装着時: SAR 0.518 W/kg、PD（吸収電力密度）0.066 mW/cm²です。

Regulatory information

We, SHARP CORPORATION, have confirmed that the product complies with the radio technical standards of Directive 2014/53/EU, but we have not issued a declaration of conformity for CE marking.

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver.

It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government. The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.

The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 0.42 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 0.71 W/kg. For body worn operation, this phone has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines. Please use an accessory designated for this product or an accessory which contains no metal and which positions the handset a minimum of 1.0 cm from the body.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of <https://www.fcc.gov/oet/ea/fccid> on FCC ID APYHRO00339.

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at <https://www.fcc.gov/general/radio-frequency-safety-0>.

FCC ID Location

The device is electronically labeled and the FCC ID can be displayed via the About phone & the Regulatory labels under the Settings menu.

CAUTION

Use only specified AC adapter (sold separately).

May cause fires, burns, bodily injury, electric shock, etc. if you use a device other than specified one.

For details on optional parts, refer to the following website.

<https://k-tai.sharp.co.jp/support/>

Do not throw the handset into a fire or heat it.

May cause fires, burns, bodily injury, etc.

Do not dispose of the handset in ordinary garbage.

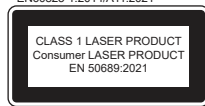
May cause fires, burns, bodily injury, etc. It may also cause damage to the environment. For details on the unnecessary handset, contact the "company or outlet listed on the warranty card" or follow the instructions by a local institution that handles used handsets.

Laser (proximity sensor)

Do not stare into proximity sensor.

May temporarily affect eyesight, leading to accidents.

EN60825-1:2014/A11:2021



To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.

Avoid using the handset in extremely high or low temperatures.

Use the handset within the range of a temperature between 5°C and 35°C and a humidity between 35% and 85%. (including charging)

Refer to the following for details on using it at a bathroom.

※P.9 “本製品が有する防水／防塵性能でできること”

Do not point the mobile light directly at someone's eyes.

Especially when you use it for young children, keep sufficient distance from them.

May cause eyesight damage. Accident may result from being dazzled or shocked.

Bluetooth function

- Bluetooth is a registered Trademark of Bluetooth SIG, Inc.

輸出管理規制

本製品および付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」およびその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。本製品および付属品を輸出および再輸出する場合は、お客さまの責任および費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

知的財産権について

著作権・肖像権について

- お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードやテレビ、ビデオなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。
実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害する恐れがありますのでお控えください。

商標について

- Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- microSDロゴ、microSDHCロゴ、microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。



- USB Type-C™はUSB Implementers Forumの商標です。
- ㊤はフェリカネットワークス株式会社の登録商標です。

- FeliCaは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です。
- Bluetoothは、米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標です。
- Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の登録商標です。
- Amazon、Amazon.co.jp、Prime Videoおよび関連するすべてのロゴは、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<https://www.openssl.org>)
この製品には OpenSSL Toolkit における使用のためにOpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています。
- This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)
この製品には Eric Young によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。
- 本製品に搭載されている「新ゴR / M」は株式会社モリサフより提供を受けており、フォントプログラムの著作権は同社に帰属します。
- Tazugane® is a trademark of Monotype Imaging Inc. registered in the U.S. Patent and Trademark Office and may be registered in certain other jurisdictions.
- Qualcomm aptX is a product of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries.
Qualcomm is a trademark of Qualcomm Incorporated, registered in the United States and other countries.
aptX is a trademark of Qualcomm Technologies International, Ltd., registered in the United States and other countries.

- Snapdragon and Qualcomm branded products are products of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries.
Snapdragon and Snapdragon Elite Gaming are trademarks or registered trademarks of Qualcomm Incorporated.



**with Snapdragon Elite
Gaming features**

- Snapdragon Sound™ is a product of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries.
Snapdragon and Snapdragon Sound are trademarks or registered trademarks of Qualcomm Incorporated.
- 本製品の音声合成ソフトウェアには、「ReadSpeaker」を使用しています。
「ReadSpeaker」は、ReadSpeaker B. V. の商標です。
- 本製品で使用しているクラウド音声認識技術は、フェアリーデバイズ株式会社のmimi® powered by NICTを使用しています。
- mimi®はフェアリーデバイズ株式会社の登録商標です。

- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- Adobe and Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries.
- Google、Android、Android Auto、Google Home、Google Home □ゴ、Google Play、Google Play □ゴ、Gmail、Gmail □ゴ、Google カレンダー™、Google カレンダー □ゴ、Google マップ、Google Chrome、Google Chrome □ゴ、Chromebook、Google 音声検索™、Google 音声検索 □ゴ、YouTube、YouTube □ゴ、YouTube Music □ゴ、Google ウォレット、Google ウォレット □ゴ、Google ドライブ、Google ドライブ □ゴ、Google 検索、Google 検索 □ゴ、Google レンズ、Google レンズ □ゴ、Google フォト、Google フォト □ゴ、Google TV™、Google TV □ゴ、Google One、Google One □ゴ、Google ニュース、Google ニュース □ゴ、Fitbit™、Fitbit □ゴ、Google Meet、Google Meet □ゴ、Gemini、Gemini □ゴ、ファミリーリンク™は、Google LLC の商標です。

- 「AQUOS／アクオス」、「AQUOS Home」、「AQUOSかんたんホーム」、「AQUOSジュニアホーム」、「My AQUOS」、「AQUOSトリック」、「Bright Keep」、「インテリジェントフレーミング」、「AIライブシャッター」、「AIライブストーリー」、「エモパー/emopa」、「エモパーメモ」、「エモパーヘルスケア」、「エモパーク/emopark」、「バーチャルHDR」、「クリップナウ/Clip Now」、「長エネスイッチ」、「リッチカラーテクノロジーモバイル/Rich color technology Mobile」、「リラックスビュー/Relax View」、「はっきりビュー」、「アウトドアビュー」、「からだメイト」、「楽ともリンク」、「Payトリガー」、「インテリジェントチャージ」、「電話アシスタント」、「Vocalist」、「AQUOS」□ゴはシャープ株式会社の商標または登録商標です。



- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

その他

本製品に搭載されているソフトウェアまたはその一部につき、**改変、翻訳・翻案、リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アッセンブルを行ったり、それに関与してはいけません。**

- 本製品は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために (i) AVC規格準拠のビデオ (以下「AVCビデオ」と記載します) を符号化するライセンス、および／または (ii) AVCビデオ (個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および／またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります) を復号するライセンスが許諾されており、その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
[HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)をご参照ください。
- 本書では各OS (日本語版) を次のように略して表記しています。
 - Windows 11は、Microsoft® Windows® 11 (Home、Pro、Enterprise、Education) の略です。
- ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[AQUOSTリック]▶[迷惑電話の対策]▶[不審な会話のお知らせ]における通話内容の解析には、国立国語研究所の「日本語日常会話コーパス」より得られたデータを利用しています。

オープンソースソフトウェアについて

- 本製品には、GNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL)、その他のライセンスに基づくソフトウェアが含まれています。
当該ソフトウェアのライセンスに関する詳細は、ホーム画面▶「アプリ一覧画面」を表示▶[設定]▶[デバイス情報]▶[法的情報]▶[サードパーティ ライセンス]をご参照ください。
- GPL、LGPL、Mozilla Public License (MPL) に基づくソフトウェアのソースコードは、下記サイトで無償で開示しています。詳細は下記サイトをご参照ください。
<https://k-tai.sharp.co.jp/support/developers/oss/>

お問い合わせ先

- 下記URLでご使用中の製品に該当するお問い合わせ先をご参照いただき、ご連絡ください。

<https://k-tai.sharp.co.jp/support/>



やめましょう、
歩きスマホ。



キケン！
水ぬれ充電



あぶない！
電池への衝撃

製造元:シャープ株式会社